

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	国語	科目	国語上級演習	単位数	2	学年	3	選択	A 選択
教科書	『よむナビ 3』（いいずな書店）								
副教材	適宜、プリントを配布予定。								

1 学習の到達目標

「論理的に考えること」を通じて、さまざまな文章でも「怯まず読み抜く力」を養っていききたい。また、文章の要約を通じて「書く力」も身につけていききたい。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

入試に出題される評論・小説を読み解くためには、文章を「正しく読む」ことが重要になります。先入観や固定観念など、1人1人が持っている先入観をできるだけ取り除いて客観的に文章を読むことができるように指導します。文章を読むことで自らの価値観や考え方が変わることには喜びを見出してください。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	目的や場面に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開を工夫して説得力のある文章を書いている。	目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読み、人間、社会、自然などについて自分の意見を持っている。 目的や場面に応じ、相手の様子に合わせて話したり、表現の工夫を評価して聞いたり、課題の解決に向けて話し合ったりしている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、話したり、聞いたり、書いたりして考えを深め、読書を通して自己を向上させようとする。 伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、身の回りの文字に関心を持ち、効果的に文字を書いている。
評 価 方 法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応 ・疑問の発露	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応 ・疑問の発露	・学習状況 ・レポート ・発問への対応 ・疑問の発露

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	評論・小説	『よむナビ 3』 (いいずな書店) 問題 1～5	○	○	○	・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。文章の構成や表現の効果について考えている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や論理の展開について考えている。文章を読んで、理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。	学習態度 確認テスト 漢字テスト 発問の反応 課題
1 学期 期末	評論・小説	『よむナビ 3』 (いいずな書店) 問題 6～12 プリント演習	○	○	○	・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。文章の構成や表現の効果について考えている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や論理の展開について考えている。文章を読んで、理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。	学習態度 確認テスト 漢字テスト 発問の反応 課題
2 学期 中間	評論・小説	『よむナビ 3』 (いいずな書店) 問題 13～18	○	○	○	・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。文章の構成や表現の効果について考えている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や論理の展開について考えている。文章を読んで、理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。	学習態度 確認テスト 漢字テスト 発問の反応 課題

2 学 期 期 末	評 論 ・ 小 説	『よむナビ 3』 (いいずな書店) 問題 19～24	○	○	○	・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。文章の構成や表現の効果について考えている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や論理の展開について考えている。文章を読んで、理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。	学習態度 確認テスト 漢字テスト 発問の反応 課題
3 学 期	評 論 ・ 小 説	プリント演習	○	○	○	・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。文章の構成や表現の効果について考えている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や論理の展開について考えている。文章を読んで、理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。	学習態度 確認テスト 漢字テスト 発問の反応 課題

2024 年度 相愛高等学校 A 群専攻選択授業 シラバス

教科	地歴科	科目	世界史探究	単位数	4	学年	2・3	選択	A 群選択
教科書	山川出版社『世界史探究 詳説世界史』								
副教材	浜島書店『ニューステージ 世界史詳覧』、授業プリント								

1 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史は一人の英雄の力だけで創り出されるものではなく、我々と同じような人々の営みが蓄積された結果です。当時の世界を一生懸命に生きていた人々のことを少しでも感じてもらうため、様々なネタをかき集め、時には、俗説、奇説、私説をまじえていきます。受験対応だけでなく、歴史を切り口に学問の面白さ、楽しさを伝えることができれば幸いです。また、知識を追い求めるよりも、今後に活用できる見方・考え方の育成を重視します。教科書の内容を全て扱うことよりも能力育成を優先し、他教科・科目で補える内容については二次的な内容として扱います。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互関連や現代世界との関係に着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握、解決を視野に入れて構想したりする力や、考察したことを効果的に説明する力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究する態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される国民としての自覚、日本の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。
評 価 方 法	定期考査 小テスト 宿題テスト	定期テスト レポート 授業中の発表内容	定期テスト レポート 授業中の取り組み

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	第1章	文明の成立と古代文明の特質 1. 文明の誕生 2. 古代オリエント文明とその周辺 3. 南アジアの古代文明 4. 中国の古代文明 5. 南北アメリカ文明	○	○	○	都市の成立や文字の使用など、古代文明に共通する歴史的特質を理解している。 オリエントの大半が乾燥地帯であること、そのなかで大河流域のメソポタミアとエジプトで灌漑農業をもとにいち早く文明化したことを理解している。 南アジアが風土に適合した生活が古くから営まれていたことを理解している。 東アジアの風土が、多様な生業とそれに基づく先史文化を生み出したこと、人的交流が行なわれたことを理解している。 アメリカ大陸で、環境に適応した文化・文明が発展したことを理解している。	宿題テスト 定期考査 単元テスト 提出物
	第2章	中央ユーラシアと東アジア世界 1. 中央ユーラシア 2. 秦・漢帝国	○	○	○	中央ユーラシアの環境に適応した遊牧民やオアシス民の生活や、彼らの周辺の諸勢力との関係を理解している。 秦・漢といった統一国家の支配体制について、それまでの春秋・戦国時代と比較したうえで理解している。	
1 学期 期末	第2章	中央ユーラシアと東アジア世界 3. 中国の動乱と変容 4. 東アジア文化圏の形成	○	○	○	魏晉南北朝の動乱がどのように展開したのかについて、遊牧民族との関わりもふまえたうえで理解している。 隋・唐の社会や制度、支配体制について、それまでの時代や他の地域との違いや、時期ごとの変化をふまえたうえで理解している。	定期考査 単元テスト 提出物

2 学 期 中 間	第 3 章	南アジア世界と東南アジア世界の展開 1. 仏教の成立と南アジアの統一国家 2. インドの古典文化とヒンドゥー教の定着 3. 東南アジア世界の形成と展開	○	○	○	南アジアで生まれたさまざまな宗教が、南アジアの社会や周辺諸地域へ与えた影響を理解している。 インド古典文化の黄金期とされるグプタ朝において、文化がどのように展開したのかを理解している。 東南アジアの大陸部と諸島部において、どのように国家が形成されたのかを理解している。	宿題テスト 定期考査 単元テスト 提出物
	第 4 章	西アジアと地中海周辺の国家形成 1. イラン諸国家の興亡とイラン文明 2. ギリシア人の都市国家 3. ローマと地中海支配 4. キリスト教の成立と発展	○	○	○	アケメネス朝、パルティア、ササン朝といったイラン諸国家がそれぞれどのように興亡したのかを理解している。 アテネにおいてどのような経緯で民主政が出現したのか、またギリシア文化にはどのような特徴があるのかを理解している。 ローマがどのような経緯で都市国家から帝国にいたったのか、またローマ人の文化にはどのような特徴があるのかを理解している。 勢力を拡大させていたキリスト教をローマ帝国がどのように利用しようとしたのかを理解している。	
2 学 期 期 末	第 5 章	イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 1. アラブの大征服とイスラーム政権の成立 2. ヨーロッパ世界の形成	○	○	○	イスラーム教がどのように成立し、短期間で勢力を拡大していったのかを理解している。 西ヨーロッパと東ヨーロッパがそれぞれどのようにして独自の世界を形づけていったのかを理解している。	定期考査 単元テスト 提出物
	第 6 章	イスラーム教の伝播と西アジアの動向 1. イスラーム教の諸地域への伝播 2. 西アジアの動向	○	○	○	中央アジア・南アジア・東南アジア・アフリカの各地でどのようにイスラーム化が進んだのかを理解している。 アッバース朝衰退後の西アジアにおいて、政治的統一は失われたが、経済・文化の交流を通じてイスラーム教徒（ムスリム）の連帯が維持されたことを理解している。	

3 学 期	第 7 章	ヨーロッパ世界の変容 と展開 1. 西ヨーロッパの封 建社会とその展開 2. 東ヨーロッパ世界 の展開 3. 西ヨーロッパ世界 の変容 4. 西ヨーロッパの中 世文化	○	○	○	中世の西ヨーロッパで発達した商業の 活動状況とその特徴について、従来との 比較をふまえて理解している。 ビザンツ帝国の衰退の過程と、その周辺 のスラヴ人および非スラヴ人の動向に ついて理解している。 封建社会の衰退と教皇権の衰退の過程 および中央集権国家に向けた西ヨーロ ッパ各国の動きを理解している。 中世の西ヨーロッパの文化について、キ リスト教の影響が大きかったことを理 解している。	宿題テスト 定期考査 単元テスト 提出物

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	理科	科目	化学	単位数	4	学年	2・3	選択	A 選択
教科書	化学 Vol.1 理論編、化学 Vol.2 物質編（東京書籍）								
副教材	セミナーノート化学（第一学習社）								

1 学習の到達目標

化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。また、入試に対応できる基礎力・応用力を育成する。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

化学についての基礎知識から計算能力までを学び、入試に対応できる力を身につけましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	物 質 の 状 態	1 編 物質の状態 1 章 物質の状態 1 節 物質の三態 2 節 気体・液体間の状態変化 ・身近な水以外の物質にも三態があることに気づく。 ・拡散が熱運動によることを理解する。 ・状態変化による体積の変化に気づく。 2 章 気体の性質 1 節 気体 2 節 気体の状態方程式 ・ボイルの法則、シャルルの法則、気体の状態方程式の成り立ちを理解したうえで、計算問題を解けるべく演習する。	○	○	○	I：状態変化には粒子の熱運動が関係していることを理解している。 II：粒運動と物質の三態変化を探究し、これらの関係性を見いだして考察している。 III：授業中の態度、提出物 I：ボイルの法則、シャルルの法則および気体の状態方程式を理解し、計算できる。 II：気体とその体積変化について、分子レベルで考えをまとめ考察できている。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
1 学 期 期 末	物 質 の 状 態	1 編 物質の状態 3 章 溶液の性質 1 節 溶解 2 節 希薄溶液の性質 3 節 コロイド ・「溶解」とは何かについて深く学ぶ。 ・沸点上昇、凝固点降下、浸透圧について理解を深める。 ・いろいろなコロイドの種類と性質を理解する。	○	○	○	I：溶解について理解し、濃度計算ができる。 II：希薄溶液の特徴について、沸点上昇などの理解ができている。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

		4章 固体の構造 1節 結晶 2節 金属結晶の構造 3節 イオン結晶の構造 4節 分子結晶と共有結合の結晶 ・金属結晶やイオン結晶などさまざまな結晶について理解を深める。 ・結晶の構造では、教科書だけでなく、ICT（タブレット）を活用して立体的にとらえて学ぶ。				I：結晶構造を理解し、計算問題が解ける。 II：結晶構造を立体的に捉え考察できている。 III：授業中の態度、提出物	
2 学 期 中 間	化 学 反 応 と エ ネ ル ギ ー	2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光 1節 反応とエンタルピー変化 2節 ヘスの法則 3節 光とエネルギー ・反応エンタルピーについて学ぶ。 ・ヘスの法則を反応エンタルピーと関連づけて図解で学ぶ。 2章 電池と電気分解 1節 電池 2節 電気分解 ・電池の構造と電気分解のしくみを理解する。	○	○	○	I：化学反応での反応エンタルピー、ヘスの法則を理解できている。 II：反応エンタルピーの種類を分類、類推することができる。 III：授業中の態度、提出物 I：電池と電気分解のしくみを理解している。 II：身近な電池との関連性について考え、さまざまな電気分解の考察ができる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

2 学 期 期 末	化 学 反 応 の 速 さ と 平 衡	3 編 化学反応の速さと平衡 1 章 化学反応の速さ 1 節 反応の速さ 2 節 反応速度を変える条件 3 節 反応のしくみ ・化学反応の速さと濃度、温度、触媒との関係について理解する。 2 章 化学平衡 1 節 可逆反応と化学平衡 2 節 平衡の移動 ・化学平衡についての理解からルシャトリエの原理に発展させ平衡の移動について学ぶ。 3 章 水溶液中の化学平衡 1 節 電離平衡 2 節 塩の水への溶解 ・電離平衡、水のイオン積から緩衝液について理解を深める。	○	○	○	I：化学反応の速さと濃度の関係を理解した。 II：反応速度を変える条件について、濃度、温度、触媒の有無の比較、検討ができています。 III：授業中の態度、提出物 I：可逆反応と化学平衡の関連性を理解できている。 II：化学平衡の移動についてルシャトリエの原理の説明ができる。 III：授業中の態度、提出物 I：電離平衡と水のイオン積について理解できている。 II：溶液の緩衝作用、溶解度積について説明できる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
3 学 期	無 機 物 質	4 編 無機物質 1 章 周期表と元素 2 章 非金属元素の単体と化合物 3 章 典型金属元素の単体と化合物 4 章 遷移金属元素の単体と化合物 5 章 金属イオンの分離と確認 ・周期表についての理解を深め、非金属元素、典型金属元素、遷移元素の特性の違いを実験を通して学ぶ。	○	○	○	I：周期表の理解を深め、非金属元素、典型金属元素、遷移元素の特性の違いを把握した。 II：金属やハロゲンなど様々な物質を学ぶことで、日常生活にどのように関わっているか考察できている。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	理科	科目	生物	単位数	4	学年	2・3	選択	A 選択
教科書	「生物」(数研出版)								
副教材	「リード Light ノート 生物」(数研出版)								

1 学習の到達目標

- ・生物学が日常生活や社会と深く結びついていること実感し、理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・生徒同士がコミュニケーションを図り、対話的に学習する力を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

生物は、細胞のようなミクロな視点から生態系のようなマクロな視点で物事をとらえる科目です。生物基礎で学んだ事柄を地球上の他の生物に応用し、なぜ生命は誕生し、どう進化してきたのかを至近要因と究極要因から探求していきます。日頃から様々な生き物に触れ、彼らの持つ生態や進化の不思議さを、一緒に考えて、解明していきましょう

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト ・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	生物の進化	第1節 生命の起源と生物の進化 ・生命の起源を化学進化仮説を通して理解する。 ・地球環境の変化に適応していく過程で進化が生じていることを理解する。	○	○	○	I：生命の起源について、化学進化を経て生命が誕生したことを理解する。 細胞の進化によって地球環境が変化したり、地球環境の変化が進化に影響したりしてきたことを理解する。 II：学習したことをもとに、最初の生物が地上ではなく海洋中で誕生した理由について考え、説明することができる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
		第2節 遺伝子の変化と多様性 ・遺伝子の変化が進化の駆動要因となることを理解する。 ・遺伝子の変化が突然変異によって生じることを理解する。 ・突然変異によって遺伝的な多様性が生じ、個体による形質の違いが生まれ、適応度に差が生じることを理解する。	○	○	○	I：生物の形質の変化が、突然変異によって生じることを理解する。 突然変異が遺伝的な多様性をもたらすことを理解する。 II：遺伝子の変化と形質の変化を示した資料を比較し、遺伝子が変わると、遺伝子をもとにつくられるタンパク質が変化し、その結果形質が変化することを見いだすことができる。 III：授業中の態度、提出物	
		第3節 遺伝子の組み合わせの	○	○	○	I：有性生殖では、減数分裂・受精を経て遺伝子の組み合わせが変化すること	

1 学 期 期 末	生 物 の 進 化	変化 ・有性生殖で多様性が生まれる仕組みを減数分裂を通して理解する。 ・遺伝の法則、連鎖と組み換えの仕組みを理解する。 ・性染色体について理解し、それらの働きを理解する。			を理解する。 減数分裂の過程で、染色体の乗換えにより遺伝子の組換えが起こることを理解する。 Ⅱ：無性生殖の場合、親と子で遺伝子の組み合わせがどうなるのかを考え、説明することができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
		第4節 進化のしくみ ・進化の駆動要因としての遺伝子頻度の変化を自然選択を通して理解する。 ・地理的な隔離によって生じる種分化のパターンを理解する。 ・雑種や自家不和合性などの遺伝子の観点から進化の仕組みを理解する。 ・性選択の仕組みを理解する。	○	○	○	
		第5節 生物の系統と進化 ・生物の系統の推定方法を理解する。 ・生物の分類群について、遺伝情報と形態学を通じて理解する。 ・分子時計について理	○	○	○	
					Ⅰ：自然選択と遺伝的浮動によって遺伝子頻度が変わることを理解する。 隔離を経て種分化が生じることを理解する。 Ⅱ：異なる種の親から子が生まれることはあるが、その子からは子が生まれない理由を考え、説明することができる。 鎌状赤血球貧血症とマラリアの発生に関連がある理由について考え、説明することができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
					Ⅰ：塩基配列やアミノ酸配列によって、生物の系統を推定できることを理解する。 ドメイン、界、門などの分類群について理解する。 Ⅱ：あるタンパク質のアミノ酸配列を複数種の生物で比較した資料に基づいて、アミノ酸配列の差異をもとに生物の系	

		解する。 第 6 節 人類の系統と進化 ・人類の系統を理解する。 ・人類と他の生物との違いを理解する。 ・霊長類と類人猿と人類の違いを DNA データをもとに理解する。	○	○	○	統が推定できることを見いだすことができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：人類の系統を理解する。 人類は直立二足歩行を行うという点で他の生物とは異なることを理解する。 Ⅱ：7 種類の霊長類について、雑種 DNA の熱安定性に関するデータをもとに系統を推定し、さらに分岐年代を推定することができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
2 学期 中間	細胞と分子	第 1 節 生体物質と細胞 ・細胞を構成する物質とそれらの特徴を理解する。 ・細胞と細胞小器官の構造と機能について理解する。 ・細胞内共生説について理解している。 ・生体膜の構造と働きについて理解する。 第 2 節 タンパク質の構造と性質 ・細胞内のタンパク質の構造について理解する。 ・生体のタンパク質の	○	○	○	Ⅰ：細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。 生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。 Ⅱ：ミトコンドリアや葉緑体が、核とは別の独自の DNA をもっている理由を考え、説明することができる。 生体膜において、リン脂質分子がどのように配置されているかを、リン脂質分子の構造をもとに考えることができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。 タンパク質の構造と機能との関係について理解する。 Ⅱ：タンパク質の立体構造が、タンパク質の機能と密接に関係していることを理解し、説明することができる。	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

		構造と機能について理解する。 第3節 化学反応にかかわるタンパク質 ・酵素の基本的な性質と反応条件について理解する。 ・酵素の活性と阻害について反応のグラフなどを通して理解する。 第4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質 ・物質輸送に関するタンパク質について、その働きと種類を理解する。 ・尿崩症とアクアポリンの関係を理解する。	○	○	○	Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：酵素の基本的な性質と、酵素がはたらく反応条件について理解する。 酵素反応を調節するしくみについて理解する。 Ⅱ：酵素の活性を阻害する薬について、文献やインターネットを用いて調べることができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：生体膜を介した物質輸送と、それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。 情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解する。 Ⅱ：尿崩症の原因を、腎臓の細胞におけるアクアポリンの存在と関連づけて考えることができる。また、尿崩症の治療法について考え、説明することができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
	代謝	第1節 代謝とエネルギー ・生体内で起こる化学反応を理解する。 ・生体内で生じる酸化還元反応について、その種類と機能について理解する。	○	○	○	Ⅰ：生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。 Ⅱ：生体内の化学反応のうち、酸化還元反応を伴う反応では、大きなエネルギーの出入りが起こることを理解し、説明することができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

2 学 期 期 末		第2節 呼吸と発酵 ・ATPを産生する上で細胞呼吸の働きを理解する。 ・有機物を消費して生物が生存していることを理解する。 ・呼吸と発酵の違いを理解する。	○	○	○	I：呼吸では有機物が酸化され、その際に取り出されたエネルギーを用いてATPが合成されることを理解する。 発酵では酸素を用いずに有機物が分解され、ATPが合成されることを理解する。 II：呼吸と発酵では、グルコース1分子から得られるATP量に大きな違いがある理由を説明することができる。 III：授業中の態度、提出物	
		第3節 光合成 ・光合成によって有機物とATPが生じる過程を理解する。 ・ミトコンドリアと葉緑体によるATP産生の違いを理解する。 ・生物が代謝を獲得することで環境に適応してきたことを理解する。	○	○	○	I：光合成では、光エネルギーを用いてATPとNADPHが合成され、これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。 II：光リン酸化と酸化的リン酸化の共通点を説明することができる。 光合成において、葉緑体のチラコイド内外のH⁺の濃度差と、ATP合成速度の関係を調べるのに必要な実験を考え、説明することができる。 III：授業中の態度、提出物	
	遺 伝 情 報 の 発 現 と 発 生	第1節 DNAの構造と複製 ・DNAの半保存的複製のしくみを理解する。 ・DNAの複製の至近要因を理解する。 ・生体の複製時に生じる様々なイベントについて理解する。	○	○	○	I：DNAの複製のしくみを理解する。 II：DNAの複製に関する資料に基づいて、DNAの複製のしくみを見いだすことができる。 岡崎フラグメントの存在を示唆する実験データに基づいて、岡崎フラグメントが存在することを論理的に説明することができる。 III：授業中の態度、提出物	
		第2節 遺伝情報の発現	○	○	○	I：遺伝情報の発現のしくみを理解す	定期考査 小テスト

3 学 期	遺 伝 情 報 の 発 現 と 発 生	・ 遺伝情報の発現のしくみを理解する。 ・ 真核生物と原核生物の発現の違いを理解する。 ・ セントラルドグマについて、核酸の種類と機能に着目しながら理解する。				る。 Ⅱ：真核生物と原核生物の遺伝情報の発現の過程を表した資料を比較し、遺伝子発現の過程の違いを見いだすことができる。 DNA の塩基では、ウラシルではなくチミンが用いられている理由を考え、説明することができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	課題 実験活動 授業態度
		第 3 節 遺伝子の発現調節 ・ 遺伝子の発現が調整されることで、個体の適応に影響を与えることを理解する。 ・ 原核生物と真核生物の遺伝子発現調節のしくみの違いを理解する。 ・ オペロン説とそれらの突然変異体について理解する。	○	○	○	Ⅰ：遺伝子の発現が調節されていることを理解する。 原核生物と真核生物において、遺伝子の発現が調節されるしくみを理解する。 Ⅱ：遺伝子の発現調節に関する資料に基づいて、遺伝子の発現が調節されていることを見いだすことができる。 ラクトースオペロンに突然変異が生じた 2 種類の突然変異株に野生株の DNA を導入する実験の結果に基づいて、それぞれの突然変異株について DNA のどの領域に異常があったのかを推定することができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
		第 4 節 発生と遺伝子発現 ・ 発生と遺伝子の関係性について理解する。 ・ 同じ遺伝情報をもつ細胞が異なる細胞に分化する要因として、細胞質に含まれる物質が分裂の際に不均等に分配されることや、周囲の細胞からの誘導があ	○	○	○	Ⅰ：発生の過程で、遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解する。 Ⅱ：同じ遺伝情報をもつ細胞が異なる細胞に分化する要因として、細胞質に含まれる物質が分裂の際に不均等に分配されることや、周囲の細胞からの誘導があ Ⅲ：授業中の態度、提出物	

		ることを理解する。 第 5 節 遺伝子を扱う技術 ・ 遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解する。 ・ バイオテクノロジーについて、その恩恵と課題を理解する。	○	○	○	I : 遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解する。 II : 遺伝子組換え技術によって、ある生物の遺伝子を別の生物に発現させることができる理由を考え、説明することができる。 III : 授業中の態度、提出物	
--	--	--	---	---	---	--	--

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	外国語 (英語)	科目	英語上級演習	単位数	2	学年	3	選択	A 選択
教科書	なし								
副教材	Accel Reading2 (啓林館) 文法・語法演習プリント※即戦ゼミ 11 (桐原書店) と併用								

1 学習の到達目標

- ・大学入試に必要とされる英語の長い英文の速読力、文法能力を向上させる。
- ・入試に頻出傾向の語彙や文法・語法問題に対応する力を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

英文はたくさん読むことや数をこなしていくことで、読むことに慣れていきます。全体の流れを読み進めて問題を解くことを意識してみましょう。本文中の単語や文法表現にも対応できるように日々の予習と復習を大切にしましょう。入試問題の長文にも対応できるように、確かな読解力をつけましょう。また、入試に頻出となる文法・語法問題の演習も取り組みます。わからないことは積極的に質問してください。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の 4 技能 (話す、書く、聞く、読む) について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	場面、目的、状況に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評 価 方 法	・学習・課題提出状況 ・確認テスト ・定期考査 ・発問への対応	・学習・課題提出状況 ・確認テスト ・定期考査 ・発問への対応	・学習・課題提出状況 ・授業振り返りシートへの記入 ・振り返りシートに基く自主的課題への取り組み

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		Accel Reading 2				a. 短い英文を読み進めて速読できる。 b. 英文を読んで設問に答えることでテーマや要点をつかみながら英文を読むことができる。 c. 重要語句の理解及び、フレーズで区切った英文を確認し、精読ができる。 d. 大学の入試に向けて、文法項目に沿って問題演習に対応できる。	学習態度 振り返りシート 確認テスト 発問の反応 課題 中間考査
		第1回	○	○	○		
		第2回	○	○	○		
		第3回	○	○	○		
		文法・語法プリント					
		1. 不可算名詞	○	○	○		
1 学期 期末		Accel Reading 2				a. 短い英文を読み進めて速読できる。 b. 英文を読んで設問に答えることで、テーマや要点をつかみながら英文を読むことができる。 c. 重要語句の理解及び、フレーズで区切った英文を確認し、精読ができる。 d. 大学の入試に向けて、文法項目に沿って問題演習に対応できる。	学習態度 振り返りシート 確認テスト 発問の反応 課題 期末考査
		第4回	○	○	○		
		第5回	○	○	○		
		第6回	○	○	○		
		文法・語法プリント					
		3. 動詞の語法②	○	○	○		
2 学期 中間		Accel Reading 2				a. 短い英文を読み進めて速読できる。 b. 英文を読んで設問に答えることで、テーマや要点をつかみながら英文を読むことができる。 c. 重要語句の理解及び、フレーズで区切った英文を確認し、精読ができる。 d. 大学の入試に向けて、文法項目に沿って問題演習に対応できる。	学習態度 振り返りシート 確認テスト 発問の反応 課題 中間考査
		第7回	○	○	○		
		第8回	○	○	○		
		第9回	○	○	○		
		第10回	○	○	○		
		文法・語法プリント					
2 学期 期 末		Accel Reading 2				a. 短い英文を読み進めて速読できる。 b. 英文を読んで設問に答えることで、テーマや要点をつかみながら英文を読むことができる。	学習態度 振り返りシート 確認テスト
		第11回	○	○	○		
		第12回	○	○	○		
		第13回	○	○	○		
		文法・語法プリント					
		6. 使役動詞構文	○	○	○		
2 学期 期 末		Accel Reading 2				a. 短い英文を読み進めて速読できる。 b. 英文を読んで設問に答えることで、テーマや要点をつかみながら英文を読むことができる。	学習態度 振り返りシート 確認テスト
		第11回	○	○	○		
		第12回	○	○	○		
		第13回	○	○	○		
		文法・語法プリント					
		7. 助動詞	○	○	○		
2 学期 期 末		Accel Reading 2				a. 短い英文を読み進めて速読できる。 b. 英文を読んで設問に答えることで、テーマや要点をつかみながら英文を読むことができる。	学習態度 振り返りシート 確認テスト
		第11回	○	○	○		
		第12回	○	○	○		
		第13回	○	○	○		
		文法・語法プリント					
		8. 比較	○	○	○		

末		第 14 回 文法・語法プリント 10. 関係詞 11. 仮定法	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	c. 重要語句の理解及び、フレーズで区切った英文を確認し、精読ができる。 d. 大学の入試に向けて、文法項目に沿って問題演習に対応できる。	発問の反応 課題 期末考査
3 学 期		Accel Reading 2 第 15 回 第 16 回 第 17 回 第 18 回 文法・語法プリント 14. 熟語 15. 会話文	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	a. 短い英文を読み進めて速読できる。 b. 英文を読んで設問に答えることで、テーマや要点をつかみながら英文を読むことができる。 c. 重要語句の理解及び、フレーズで区切った英文を確認し、精読ができる。 d. 大学の入試に向けて、文法項目に沿って問題演習に対応できる。	学習態度 振り返りシート 確認テスト 発問の反応 課題 期末考査

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	外国語 (英語)	科目	英会話	単位数	1	学年	3	選択	A 選択
教科書	なし (オンライン授業)								
副教材	オンライン教材 (Chatty)、プリント								

1 学習の到達目標

英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、情報や考えなどを的確に理解したり伝えたりする能力を養う。英語でのコミュニケーション能力をつける。様々な表現を理解し、それらを適切な状況で積極的に用いて自分の意思を述べる姿勢を身につける。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

オンラインを利用して、1対1のコミュニケーション力を磨いていきましょう。間違えることを恐れず、自分の言いたいことを積極的に表現していくことが大切です。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	音声、語彙、表現、文法、言葉の働きなどを理解し (=知識)、それらを課題や状況に合わせて、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることができる (=技能)。	目的や場面、状況を設定した言語運用課題を通して、日常的・社会的な話題・内容について、理解し、他者と自分の考えなどを表現しあうことができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。また、自己調整しながら、粘り強く学習に取り組むことができる。
評 価 方 法	- 英会話講師の評価 - パフォーマンステスト - 授業への取り組み - 授業の様子 - 発話内容 - 小テスト - 提出課題	- 英会話講師の評価 - パフォーマンステスト - 授業への取り組み - 授業の様子 - 発話内容 - 小テスト - 提出課題	- 英会話講師の評価 - パフォーマンステスト - 授業への取り組み - 授業の様子 - 発話内容 - 小テスト - 提出課題
上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期		・ Chatty 英会話 ・ パフォーマンス テスト	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	・ コミュニケーションに関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ることができる。 ・ 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解し、表現を工夫しながら英語で伝える力が身についている。	授業への取り組み 授業の様子 発話内容 小テスト 提出課題 講師評価
2 学期		・ Chatty 英会話 ・ パフォーマンス テスト	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	・ コミュニケーションに関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ることができる。 ・ 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解し、表現を工夫しながら英語で伝える力が身についている。	授業への取り組み 授業の様子 発話内容 小テスト 提出課題 講師評価
3 学期		・ Chatty 英会話 ・ パフォーマンス テスト	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	・ コミュニケーションに関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ることができる。 ・ 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解し、表現を工夫しながら英語で伝える力が身についている。	授業への取り組み 授業の様子 発話内容 小テスト 提出課題 講師評価

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	A 群一般教養	科目	秘書検定	単位数	1	学年	3	選択	A 選択
教科書	出る順問題集 秘書検定 3 級に面白いほど受かる本（株式会社 KADOKAWA）								
副教材	秘書検定 3 級実問題集 2024 年度版（早稲田教育出版） プリント（授業時に配布）								

1 学習の到達目標

「秘書検定 3 級合格」を目指すと共に、これから社会で必要とされる常識（=職場常識）を体得します。また、秘書技能という職域の学びを通して、社会人としての基本的なマナーを身に付けることを目標とします。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

秘書検定試験の内容は、社会に出て働く人なら誰でも備えておかねばならない社会人としての基本的なマナー・職場常識です。この授業を通し、ヒューマンスキルを身に付け、円滑な人間関係を構築するスキルを学び、社会への一步を踏み出す自信に繋げて頂きたいと思います。

学習の進め方としては、①テキスト・配布プリントで各領域のポイントを説明→②練習問題を解く→③解説で理解を深める→④自己チェック・復習の順に進めます。過去問題集は試験までに各回 3 回は実施しましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	各分野における基本的な概念を体系的に理解し、分野毎の知識を身に付けている。	学習を通して、知識を身に付け情報を活かすことで、実践する力を養う。	秘書としての知識・スキルは、社会人一般に求められるヒューマンスキルであるとの認識のもとに、自分事として身に付ける。
評 価 方 法	学習の理解度 理解度テスト 検定合否結果(3 学期のみ)	学習状況 発問への反応・発言	学習状況 発問への反応・発言 課題への取り組み・態度
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりとごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期	理論・実技	1. 理論 I 必要とされる資質 II 職務知識 III 一般知識 2. 実技 IV マナー・接遇	○	○	○	a:「秘書というのは、どのような職種であるか」「秘書には、どのような能力が求められているのか」「秘書になるには、どのような心構えで臨めば良いのか」基本的な考え方が理解出来ている。 b:「秘書が会社の中で、どのような業務を遂行するのか」秘書の具体的な仕事の方法を理解する。I「必要とされる資質」で学んだ知識を基本にして、様々な場面でどのように応用していくかが判断できる。 c:社会常識を備え、時事問題について知識がある。 経営に関する初歩的な知識が身に付いている。 d:職場でよい人間関係をつくるための初歩的な知識が身に付いている。 来客対応、電話対応、敬語の使い方、話し方と聞き方、慶事や弔事、贈答のマナーといった秘書としての実務を学び、適切な対応が判断できる。 日常生活においても、学んだ言葉遣いやマナーを積極的に取り入れようとする意欲や姿勢が見られる。	学習態度 課題提出 発問の反応 理解度
		理解度テスト	○	○		学習をした理論・実技を正しく理解し、適切に判断できる。	筆記テスト

2 学 期	実 技 ・ 記 述	2. 実技 IVマナー・接遇 V 技能	○	○	○	a:II「職務知識」で学んだことの対応や 対処をする上で必要な知識を学ぶ。 ビジネスの場で必要な会議の知識、 ビジネス文書の基本的な書き方、 秘文書の扱い方など文書管理、郵便物 の取り扱い、ファイリング、スケジュー ール管理などを理解し、秘書の適切な 行動が判断できる。 事務用品の種類や上司室の環境整備を 学び、秘書としての管理すべきことを 適切に判断できる。	学習態度 課題提出 発問の反応 理解度
		・ 記述問題	○	○	○	b:郵便の知識、社外文書・社内文書、 グラフの書き方、メモの書き方など、 記述式問題で問われるポイントを理解 し解答できる。	検定結果は 3 学期評価
		3. 秘書検定 3 級受験	○				
		理解度テスト	○	○		学習をした理論・実技を正しく理解し、 適切に判断できる。	筆記テスト
3 学 期	復 習	上級受験に向けての復 習及び対策	○	○	○	a:上級受験に向けての復習及び対策を 行い、ビジネスマナーについての理解 を深める。	検定結果 学習態度 発問の反応 理解度
		理解度テスト	○	○		学習をした理論・実技を正しく理解し、 適切に判断できる。	筆記テスト

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4	選択等	BC 群
教科書	数研出版 新編 数学Ⅱ（数研出版）						
副教材等	3TRIAL 数学Ⅱ(数研出版) スタディサプリ						

1 学習の到達目標

いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業に集中して、授業中にわかる、できるようになりましょう。
自分で考えてもわからないところ、答えが合わないところはすぐに質問しましょう。
宿題は必ずしましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評 価 方	授業中のテスト 定期考査	授業中のテスト 定期考査 レポート課題	提出物 レポート課題

法			
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	第 1 章 式と証明	式と計算 等式・不等式の証明				I ○3 次式の展開の公式を利用することができる。 ・例 1～2、練習 1、3 ○3 次式の因数分解の公式を利用することができる。 ・例 3、練習 4 ○式の形に着目して変形し、3 次式の因数分解の公式を適用する形にすることができる。 ・例題 1、練習 5 ○ $(a+b)^n$ の展開式からパスカルの三角形を導き、パスカルの三角形の性質を理解する。 ・練習 6～7 ○二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ・例 4、例題 2、練習 8～9 ○二項定理を 3 項の場合に適用することで、展開式の係数を求めることができる。 ・応用例題 1、練習 11 ○多項式の割り算の計算方法を理解している。 ・例題 3、練習 12	授業内のテスト 定期考査 提出物 レポート課題
	第 2 章 複素数と方程式	複素数と 2 次方程式の解 高次方程式	○	○	○		

					○割り算で成り立つ等式を理解し、利用することができる。 ・例 6、例題 4、練習 13～14 ○分数式の約分、四則計算ができる。 ・例 7～9、例題 5、練習 15～18 ○分数式の計算の結果を、既約分数式または多項式の形にして表現することができる。 ・例 8～9、例題 5、練習 16～18 ○恒等式と方程式の違いを理解している。 ・例 10、練習 19 ○恒等式となるように、係数を決定することができる。 ・例題 6、練習 20 ○分数式の恒等式の分母を払った等式が恒等式であることを利用できる。 ・応用例題 2、練習 21 ○恒等式 $A=B$ の証明を、適切な方法で行うことができる。 ・例題 7、練習 22 ○$A=B$ と $A-B=0$ が同値であることを利用して、等式を証明することができる。 ・例題 8、練習 23 ○比例式を $y=kx$ とおいて処理することができる。 ・応用例題 3、練習 26 ○実数の大小関係の基本性質に基づいて、自明な不等式を証明することができる。 ・例 12 ○平方の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 ・例題 11、練習 31 ○絶対値の性質を利用して、絶対値を含む不等式を証明することができる。 ・応用例題 5、練習 32 ○相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができ	
--	--	--	--	--	---	--

					る。 ・ 例題 12、練習 33 ○複素数、複素数の相等の定義を理解している。 ・ 例 1、例題 1、練習 1～2 ○複素数の四則計算ができる。 ・ 例 2～3、5、練習 3～4、6 ○共役な複素数を求めることができる。 ・ 例 4、練習 5 ○負の数の平方根を理解している。 ・ 例 6、練習 7 ○負の数の平方根を含む式の計算を、i を用いて処理することができる。 ・ 例 7、練習 8 ○2次方程式の解の公式を利用して、2次方程式を解くことができる。 ・ 例 9、練習 10 ○判別式を利用して、2次方程式の解の種類を判別することができる。 ・ 例題 2～3、応用例題 1、練習 11～13 ○解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。 ・ 例 10、例題 4～5、練習 14～16 ○対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。 ・ 例題 4、練習 15 ○2次方程式の解を利用して、2次式を因数分解できる。 ・ 例題 6、練習 17 ○2数を解とする2次方程式を作ることができる。 ・ 例 11、練習 18 ○剰余の定理を利用して、多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。 ・ 応用例題 2、練習 21 ○$P(k)=0$ である k の値のを見つけ方を理解し、高次式を因数分解できる。	
--	--	--	--	--	--	--

					・例 14、練習 23 ○因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。 ・例題 8～10、練習 24～27 ○高次方程式の 2 重解、3 重解の意味を理解している。 ・ p.61 ○高次方程式の虚数解から、方程式の係数を決定することができる。 ・応用例題 3、練習 28 ○高次方程式が虚数解 $a+bi$ を解にもてば、$a-bi$ を解にもつことを利用できる。 ・小項目 C II ○数学 I で既習の 2 次式の展開公式を利用して、3 次式の展開公式を導くことができる。 ・ p.8 ○二項定理をパスカルの三角形と結び付けて考えることができる。 ・ p.11～13 ○二項定理を等式の証明に活用することができる。 ・例 5、練習 10 ○多項式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。 ・例 6、例題 4、練習 13～14 ○分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。 ・ p.19～21 ○恒等式における文字の役割の違いを認識できる。 ・ p.22～23 ○与えられた条件式の利用方法を考え、等式を証明することができる。 ・例題 8、練習 23～24 ○比例式から分数式の値を求めることができる。 ・例 11、練習 25	
--	--	--	--	--	---	--

					○不等式 $A > B$ を証明するとき、$A - B > 0$ を示してもよいことを利用して、不等式を証明することができる。 ・ 例題 9、応用例題 4、練習 27～28 ○不等式の証明に実数の性質を利用できるように、式変形を考えることができる。 ・ 例 13、例題 10、練習 29～30 ○不等式の証明で、等号の成り立つ場合について考察できる。 ・ p.30～34 ○同値な不等式を証明することで、もとの不等式を証明することができる。 ・ 例題 11、練習 31 ○A と B の大小を $A - B$ の符号から考察することができる。 ・ 補充問題 7 ○複素数の表記を理解し、複素数 $a + 0i$ を実数 a と同一視できる。 ・ p.40 ○複素数の四則計算の結果は複素数であることを理解している。 ・ p.43 ○判別式 D の代わりに $\frac{D}{4}$ を用いても解の種類を判別できることを理解し、積極的に用いようとする。 ・ 例題 2～3、応用例題 1、練習 11～13 ○与えられた 2 数を解にもつ 2 次方程式が 1 つには定まらないことを理解している。 ・ 例 11、練習 18 ○異なる 2 つの実数 α、β が正の数、負の数、異符号であることを、同値な式で表現できる。 ・ p.52～53 研究 ○2 次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して解くことができる。	
--	--	--	--	--	--	--

					・ p.52～53 研究 ○多項式を1次式で割ったときの余りに ついて、剰余の定理で考察することができる。 ・ 例 12、例題 7、練習 19～20 ○多項式 $P(x)$ が $x - k$ で割り切れるこ とを式で表現することができる。 ・ p.57、例 13、練習 22 ○高次方程式を1次方程式や2次方程式 に帰着させることができる。 ・ 例題 8～10、練習 24～27 ○高次方程式が解 α をもつことを、式 を用いて表現できる。 ・ 応用例題 3、練習 28 Ⅲ ○因数分解の検算に展開を利用しよ うとする態度がある。 ・ p.10 ○ $(a + b + c)^n$ を展開したときの $a^p b^q c^r$ の係数がどうなるかを、興味・ 関心をもって調べようとする。 ・ p.15 研究 ○多項式の割り算の計算方法を理解し ようとする態度がある。 ・ p.16 ○通分をすることで、約分できる形に適 切に式変形をしようとする態度がある。 ・ 例題 5、練習 18 ○恒等式の性質を理解し、具体的 な問題に取り組もうとする。 ・ p.22～23 ○2種類の文字を含む多項式の割り算に 興味を示し、具体的な問題に取り組もう とする。 ・ 補充問題 2 ○繁分数式を分数式の性質を用いて処 理することに意欲を示す。 ・ 補充問題 3 ○恒等式の係数を決定する際に、係数比 較法と数値代入法とを、比較して考察し	
--	--	--	--	--	---	--

					ようとする。 ・ p.24 コラム ○比例式を含む等式の証明を通じて、加比の理に興味をもち、考察しようとする。 ・ p.27 ○不等式の証明を通じて、三角不等式に興味・関心をもち、それを利用しようとする。 ・ 応用例題 5、練習 32 ○相加平均や相乗平均だけでなく、それらと調和平均の大小関係についても興味をもって取り組もうとする。 ・ p.35 コラム ○2 次方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し、考察しようとする。 ・ p.40 ○2 次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2 次方程式の解を考察しようとする。 ・ 例 8～9、練習 9～10 ○2 次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。 ・ 例題 6、練習 17 ○2 次方程式の解の符号を 2 次関数のグラフで考察することに興味をもち、問題に取り組もうとする。 ・ p.54 コラム ○多項式を 1 次式で割る計算に、組立除法を積極的に利用する。 ・ p.58 研究 ○1 の 3 乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。 ・ p.59 ○1 の 3 乗根 ω の性質に興味・関心をもち、問題に取り組もうとする。 ・ p.63 コラム	
--	--	--	--	--	--	--

1 学 期 期 末	第 3 章 図 形 と 方 程 式	点と直線	○	○	○	I ○数直線上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ・例1～2、練習1～3 ○線分の外分点の公式を適用する際に、分母を正にして計算しようとする。 ・例2、練習3 ○座標平面上において、2点間の距離が求められる。 ・例3、練習6 ○座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ・例4、練習7 ○三角形の重心の座標の公式を理解している。 ・練習8 ○ x 軸に垂直な直線は $y = mx + n$ の形に表せないことを理解している。 ・p.78 ○与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 ・例6～7、練習10～11 ○2直線の平行・垂直条件を理解していて、それを利用できる。 ・例題2、練習14～15 ○図形 $F(x, y) = 0$ が点 (s, t) を通ることを $F(s, t) = 0$ として処理できる。 ・応用例題1、練習16 ○点と直線の距離の公式を理解していて、それを利用することができる。 ・例9、練習17 ○ $kF(x, y) + G(x, y) = 0$ の形を利用して、直線の方程式を求めることができる。 ・p.84 研究 ○与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 ・例10～11、練習18～20	授 業 内 の テ ス ト 定 期 考 査 提 出 物 レ ポ ー ト 課 題
		円 軌跡と領域					

					○x、y の 2 次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。 ・ 例 12、練習 21 ○図形 $F(x, y) = 0$ が点 (s, t) を通ることを $F(s, t) = 0$ として処理できる。 ・ 例題 3、練習 22 ○3 点を通る円の方程式を求めることができる。 ・ 例題 3、練習 22 ○円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ・ 例題 4、練習 23 ○円と直線の位置関係を、適切な方法で判定できる。 ・ p.90～91 ○円の接線の公式を理解していて、それを利用できる。 ・ 例 13、応用例題 2、練習 26～27 ○円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。 ・ 応用例題 2、練習 27 ○2 つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係から調べることができる。 ・ p.95、練習 28 ○2 つの円の位置関係と、中心間の距離と半径から、円の方程式を求めることができる。 ・ 例題 7、練習 29 ○ $kF(x, y) + G(x, y) = 0$ の形を利用して、円の方程式を求めることができる。 ・ p.96 研究 ○2 つの円の共有点の座標を求める際に、適切な方法で文字を消去することができる。 ・ 補充問題 8 ○点が満たす条件から得られた方程式
--	--	--	--	--	---

					を、図形として考察することができる。 ・ p.98～100 ○軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ・ 例 14、例題 8、練習 30～31 ○媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。 ・ 応用例題 3、練習 32 ○不等式の表す領域を図示することができる。 ・ 例 15～17、練習 33～36 ○連立不等式の表す領域を図示することができる。 ・ 例 18、例題 9、練習 37 ○領域を利用する 1 次式の最大値・最小値の求め方を理解している。 ・ 応用例題 5、練習 39 II ○図形の性質を証明する際に、計算が簡単になるように座標軸を適切に設定できる。 ・ p.75 研究 ○直線が x、y の 1 次方程式で表されることを理解している。 ・ 小項目 A ○図形的条件（線対称など）を式で表現できる。 ・ 応用例題 1、練習 16 ○直線に関して対称な点の座標を求めることができる。 ・ 応用例題 1、練習 16 ○点の座標を求めるのに、図形の性質を適切に利用できる。 ・ 補充問題 3 ○円の方程式が x、y の 2 次方程式で表されることを理解している。 ・ p.86～87 ○3 点を通る円はこの 3 点を頂点とする	
--	--	--	--	--	--	--

					三角形の外接円であることを理解している。 ・ p.88 ○円と直線の共有点の個数を、2 次方程式の実数解の個数で考察することができる。 ・ 例題 5、練習 24 ○円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考察することができる。 ・ 例題 6、練習 25 ○2 つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係で考察することができる。 ・ p.94 ○平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。 ・ p.98～100 ○軌跡を求めるには、逆についても調べる必要があることを理解している。 ・ p.98～100 ○不等式の満たす解を、座標平面上の点の集合としてみることができる。 ・ p.101～103 III ○数直線上の点について調べようとする。 ・ p.68～70 ○図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。 ・ p.75 研究 ○x 切片と y 切片が与えられた直線の方程式について、一般に成り立つ性質を考察しようとする。 ・ 練習 12 ○ある点を通り与えられた直線に平行な直線、垂直な直線の方程式を公式化し、利用しようとする。 ・ p.80 脚注	
--	--	--	--	--	---	--

					○2 直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。 ・ p.84 研究 ○垂心について、直線の方程式を利用して代数的に考察しようとする。 ・ p.85 コラム ○x、y の 2 次方程式が常に円を表すとは限らないことを考察しようとする。 ・ 小項目 B ○円と直線の位置関係を、2 次方程式の判別式や、円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係により調べようとする。 ・ p.89～91 ○2 つの円の交点を通る円の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。 ・ p.96 研究 ○x、y の 2 次方程式が常に円を表すとは限らないことを考察しようとする。 ・ p.97 コラム ○点が満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。 ・ p.98～100 ○少し複雑な不等式の表す領域についても、興味をもち、取り組もうとする。 ・ 応用例題 4、練習 38 ○不等式を含む命題を、不等式の表す領域を用いて証明することに興味・関心をもつ ・ 補充問題 11 ○不等式の表す領域を確認する方法に興味をもち、実際の問題に利用してみようとする。 ・ p.107 コラム		
2 学 期	第 4 章	三角関数 加法定理	○	○	○	I ○一般角を表す動径を図示したり、動径の表す角を $\alpha + 360^{\circ} \times n$ と表したり	授業内のテスト 定期考査

中 間	三 角 関 数				することができる。 ・ 例 1、練習 1～2 ○ 角度の表し方に度数法と弧度法があることを理解している。また、弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をすることができる。 ・ p.114、練習 4 ○ 扇形の弧の長さや面積の公式を理解している。 ・ 例 2、練習 5 ○ 弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によって求めることができる。 ・ 例 3、練習 6 ○ 単位円周上の点の座標を、三角関数を用いて表すことができる。 ・ p.117 ○ 三角関数の相互関係を理解し、それらを利用して様々な値を求めたり、式変形をしたりすることができる。 ・ 例題 1～3、応用例題 1～2、練習 8～12 ○ いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。 ・ 例 4～6、練習 13～16 ○ 三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。 ・ p.127 ○ $\theta + 2n\pi$ や $-\theta$ などの公式を理解し、それらを用いて三角関数の値を求めることができる。 ・ 例 7～8、練習 17 ○ 三角関数を含む 2 次方程式の解き方を理解している。 ・ 応用例題 3、練習 21 ○ 三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。 ・ 補充問題 4 ○ 加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。	提出物 レポート課題
--------	------------------	--	--	--	---	---------------

					・例 11～12、例題 5、練習 24～28 ○正接の加法定理を利用して、2 直線のなす角を考えることができる。 ・例題 6、練習 29 ○2 倍角、半角の公式などを利用して、三角関数の値を求めたり、等式を証明したりすることができる。 ・例 13～14、練習 30～33 ○2 倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式を解くことができる。 ・応用例題 4、練習 34 ○三角関数の合成について理解している。 ・例 15、練習 35 II ○一般角を動径とともに考察することができる。 ・p.112～113 ○弧の長さで角を図る方法として、弧度法を考察することができる。 ・p.114 ○三角比の定義を、三角関数の定義に一般化することができる。 ・p.116 ○単位円上の点の動きから、三角関数のグラフを考えることができる。 ・p.121～123 ○三角関数の性質を、グラフの特徴とともに考察することができる。 ・p.127 ○三角関数の性質を、単位円を用いて考察することができる。 ・p.128 ○三角関数を含む方程式・不等式を解く際に、単位円やグラフを図示して考察することができる。また、その解き方を理解している。 ・例 9～10、例題 4、練習 18～20、22 ○$-1 \leq \sin \theta \leq 1$などに注意して、おき	
--	--	--	--	--	---	--

					換えによって三角関数を含む関数の 最大値・最小値を考察できる。 ・ 補充問題 4 ○角を弧度法で表した場合にも、加法定 理が適用できる。 ・ 練習 25、28 ○正接の定義と加法定理を利用して、2 直線のなす角を考えることができる。 ・ p.137 ○2 倍角の公式を利用して、三角関数 を含むやや複雑な方程式・不等式の角を 統一して考えることができる。 ・ 応用例題 4、練習 34 ○x の関数$y = a\sin x + b\cos x$の式を適切 に変形することで、関数の最大値・最 小値を求めることができる。 ・ 例題 7、練習 36 ○合成後の変数のとる値の範囲に注意 して、$a\sin x + b\cos x = k$ の形の方程式 を解くことができる。 ・ 応用例題 5、練習 37 III ○弧度法に興味をもち、角度の換算に取 り組もうとする。 ・ p. 114、練習 4 ○三角比の定義を一般化して、三角関数 の定義を考察しようとする。 ・ p. 116 ○$y = \sin \theta$ と $y = \cos \theta$ のグラフが同じ 形の曲線であることに興味・関心をも つ。 ・ p.121 ○周期関数に興味をもち、その性質を調 べようとする。 ・ p.122 ○単位円や三角関数のグラフを利用し て、三角関数の性質を調べようとする。 ・ p.127～128 ○三角関数を含む方程式・不等式を解く ことに取り組む意欲がある。	
--	--	--	--	--	---	--

					・ p.129～131 ○サインカーブが円柱の切り口に現れることに興味・関心をもち、身近な例を調べようとする。 ・ p.132 コラム ○加法定理の証明について、一般角に対しても成り立つことに興味をもち、考察しようとする。 ・ p.133 ○同じ周期をもつ 2 つの関数 $y = \sin x$ と $y = \cos x$ を合成すると そのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・関心をもち、 ・ p.142 ○加法定理を利用して、座標平面上の点の回転を考察することに関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。 ・ 補充問題 5 ○三角関数と複素数の表示（極形式）との関係に興味を示し、3 倍角の公式などを導こうとする。 ・ p.145 コラム		
2 学期期末	第 6 章 微分法と積分法	微分係数と導関数 関数の値の変化 積分法	○	○	○	I ○極限值を計算して微分係数を求めるとき、分母の h は 0 でないことを理解している。 ・ 小項目 B、C ○平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。 ・ 例 1、3、練習 1、3 ○微分係数の図形的意味を理解している。 ・ 小項目 D ○定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。 ・ 例 5、練習 6 ○導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。 ・ 例 6、例題 1、練習 8～9 ○導関数を利用して微分係数が求めら	授業内のテスト 定期考査 提出物 レポート課題

					れることを理解している。 ・ 例題 2、練習 10 ○変数が x、y 以外の関数について、導関数が求められる。 ・ 例 7、練習 11～12 ○接点の x 座標が与えられたとき、接線の方程式を求めることができる。 ・ 例題 3、練習 13 ○接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。 ・ 例題 3、練習 13 ○曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。 ・ 応用例題 1、練習 14 ○微分係数の値などから関数を決定することができる。 ・ 補充問題 2 ○導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。 ・ 例 8、練習 15 ○関数の増減や極値を調べるのに、増減表を書いて考察している。 ・ p.192～194 ○導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。 ・ 例題 4、応用例題 2、練習 16、18 ○関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。 ・ 応用例題 2、練習 18 ○導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 ・ 例題 5、練習 19 ○最大・最小の応用問題では、変数のとり方、定義域に注意して解くことができる。 ・ 応用例題 3、練習 20 ○導関数を利用して、方程式の実数解の個数問題、不等式の証明問題を解くことができる。	
--	--	--	--	--	---	--

					・ 例題 6、応用例題 4、練習 21～22 ○不等式 $f(x) \geq 0$ を、関数 $y = f(x)$ の最小値が 0 以上と読み替えることができる。 ・ 応用例題 4、練習 22 ○不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに示すことができる。 ・ p.203～205 ○不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。 ・ 例 13～14、練習 25～26 ○与えられた条件を満たす関数を、不定積分を利用して求めることができる。 ・ 応用例題 5、練習 27 ○定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。 ・ 例 15～18、例題 7、練習 28～32 ○上端が変数 x である定積分で表された関数を微分して処理することができる。 ・ 応用例題 6、練習 34 ○直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 ・ p.213～216 II ○平均変化率における x の変化量 h は負でもよいことを理解している。 ・ 小項目 B ○導関数を表す種々の記号を理解していて、それらを適切に使うことができる。 ・ 小項目 A～C ○定点 C から曲線に接線を引くとき、接点 A における接線が点 C を通ると読み替えることができる。 ・ 応用例題 1、練習 14 ○接線の傾きで関数の増減が調べられ	
--	--	--	--	--	---	--

					ることを理解している。 ・ p.191～192 ○$f'(a) = 0$ は、$f(a)$ が極値であるための必要条件ではあるが、十分条件ではないことを理解している。 ・ 応用例題 2、練習 18 ○最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、意識して考察できる。 ・ p.197 ○方程式の実数解の個数を、関数のグラフと x 軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。 ・ 例題 6、練習 21 ○不等式を、関数のグラフと x 軸との上下関係に読み替えて、考察できる。 ・ 応用例題 4、練習 22 ○微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。 ・ p.203 ○定積分の性質の等式を、左辺から右辺、右辺から左辺への変形として利用できる。 ・ 例 17～18、練習 31～32 ○上端が x である定積分を、x の関数とみることができる。 ・ 小項目 C ○面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかいて考察している。 ・ p.213～216 ○図形の対称性に着目した面積計算をすることができる。 ・ 例題 8、練習 36 ○3 次関数のグラフと x 軸とで囲まれた 2 つの部分の面積の和を求めることができる。 ・ p.218 研究 Ⅲ ○接線の傾きと微分係数との関連を図形的に考察しようとする。	
--	--	--	--	--	---	--

					・小項目 D ○関数 x^n の導関数について、二項定理を用いた証明に興味をもち、考察しようとする。 ・p.187 研究 ○曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式を求めようとする。 ・応用例題 1、練習 14 ○平均の速さと瞬間の速さに興味をもち、平均変化率や微分係数との関連を考察しようとする。 ・p.190 コラム ○関数の増減や極値を調べ、3 次関数のグラフをできるだけ正しくかこうとする。 ・例題 4、練習 16 ○関数の増減や極値を調べ、4 次関数のグラフをできるだけ正しくかこうとする。 ・p.196 研究 ○身近にある最大値・最小値の問題を、微分法を利用して解決しようとする。 ・応用例題 3、練習 20 ○方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。 ・例題 6、応用例題 4、練習 21～22 ○3 次関数の対称性について、対称の中心となる点（変曲点）について考察しようとする。 ・p.201 コラム ○積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。 ・p.203 ○定積分の性質を利用して、計算がなるべく簡単になるように工夫して計算しようとする意欲がある。 ・例 17～18、練習 31～32 ○面積 $S(x)$ が関数 $f(x)$ の原始関数の 1 つであることに興味・関心をもち、考察しようとする。	
--	--	--	--	--	---	--

					・ p.211～213 ○直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分を用いて求めようとする。 ・ p.213～216 ○絶対値記号を含む関数の積分の意味に興味をもち、具体的な問題に取り組もうとする。 ・ 補充問題 10、p.219 コラム	
3 学期	第 5 章 指数関数と対数関数	指数関数 対数関数	○	○	I ○指数が整数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。 ・ 例 1、練習 1～2 ○累乗根の定義を理解し、累乗根の計算ができる。 ・ 例 4、練習 5 ○指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。また、累乗根を含む計算では、分数指数を利用して計算することができる。 ・ 例 5～6、例題 1、練習 6～7 ○指数が無理数の場合の累乗根の意味を理解することができる。 ・ p.155 ○指数関数のグラフの概形、特徴を理解している。 ・ p.157、練習 9 ○底と 1 の大小に注意して、指数関数を含む不等式を解くことができる。 ・ 例題 4、練習 12 ○x 軸方向、y 軸方向に平行移動した指数関数のグラフをかくことができる。 ・ 補充問題 3 ○$a^x > 0$ に注意して、おき換えによって指数方程式・不等式を解くことができる。 ・ 補充問題 5 ○指数と対数とを相互に書き換えることができる。	授業内のテスト 定期考査 提出物 レポート課題

					・例 8、練習 13～14 ○対数の定義を理解し、対数の値を求めることができる。 ・例 9、練習 15 ○対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。 ・例 10、練習 17 ○底の変換公式を等式として利用できる。 ・例 11、練習 18 ○対数関数のグラフの概形、特徴を理解している。 ・p.166、練習 19 ○底と 1 の大小に注意して、対数関数を含む不等式を解くことができる。 ・例題 6、練習 21 ○対数の性質を用いる際に、真数が正であることに着目できる。 ・応用例題 1～2、練習 22～23 ○正の数を $a \times 10^n$ の形に表現して、対数の値を求めることができる。 ・例 12、練習 24 ○常用対数の定義を理解し、それに基づいて種々の値を求めることができる。 ・例 12、練習 24 ○常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。 ・例題 7～8、応用例題 3、練習 25～27 ○x 軸方向に平行移動した対数関数のグラフをかくことができる。 ・補充問題 7 ○おき換えによって関数の最大・最小問題を解くことができる。 ・補充問題 9 Ⅱ ○指数法則が成り立つように、指数の範囲を正の整数から実数にまで拡張していることを理解している。 ・p.150～p.155	
--	--	--	--	--	--	--

					○累乗根をグラフによって考察することができる。 ・ p.152 ○指数関数 $y = a^x$ のグラフが定点(0、1)を通ることを理解している。 ・ p.157、練習 9 ○指数関数の増減によって、大小関係や不等式・方程式を考察することができる。 ・ 例題 2～4、練習 10～12 ○対数 $\log_a M$ が $M = a^p$ を満たす指数 p を表していることを理解している。 ・ 例 7～9、練習 13～15 ○指数法則から、対数の性質を考察することができる。 ・ p.163～164 ○対数と指数の関係から、両者のグラフが互いに直線 $y = x$ に関して対称であるという見方ができる。 ・ p.165 ○対数関数 $y = \log_a x$ のグラフが定点(1、0)を通ることを理解している。 ・ p.166、練習 19 ○対数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 ・ 例題 5～6、練習 20～21 ○n 桁の数、小数首位第 n 位の数、不等式で表現することができる。 ・ p.170～172 III ○累乗根の性質に興味を示し、具体的に証明しようとする。 ・ p.153 ○負の数の n 乗根に興味を示し、具体的に理解しようとする。 ・ p.155 研究 ○指数関数のグラフの概形を、点をプロットしてかこうとする意欲がある。 ・ p.156～157	
--	--	--	--	--	--	--

					○2 の 3 乗根を小数で表すことに興味を示し、実際に取り組もうとする。 ・ p.160 コラム ○指数と対数との相互関係に興味・関心をもつ。 ・ p.161 ○やや複雑な対数方程式、対数不等式に積極的に取り組もうとする。 ・ 応用例題 1～2、練習 22～23 ○桁数や小数首位の問題を一般的に考察しようとする。 ・ p.170～172 ○現実世界の問題を、常用対数を用いて考察しようとする。 ・ p.173 コラム	
--	--	--	--	--	---	--

2024 年度 相愛高等学校 B 群専攻選択授業 シラバス

教科	地歴科	科目	世界史演習	単位数	2	学年	3	選択	B 群選択
教科書	山川出版社『世界史探究 詳説世界史』								
副教材	浜島書店『ニューステージ 世界史詳覧』、授業プリント								

1 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史は一人の英雄の力だけで創り出されるものではなく、我々と同じような人々の営みが蓄積された結果です。当時の世界を一生懸命に生きていた人々のことを少しでも感じてもらうため、様々なネタをかき集め、時には、俗説、奇説、私説をまじえていきます。受験対応だけでなく、歴史を切り口に学問の面白さ、楽しさを伝えることができれば幸いです。また、知識を追い求めるよりも、今後に活用できる見方・考え方の育成を重視します。教科書の内容を全て扱うことよりも能力育成を優先し、他教科・科目で補える内容については二次的な内容として扱います。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互関連や現代世界との関係に着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握、解決を視野に入れて構想したりする力や、考察したことを効果的に説明する力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究する態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される国民としての自覚、日本の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。
評 価 方 法	定期考査 小テスト 宿題テスト	定期テスト レポート 授業中の発表内容	定期テスト レポート 授業中の取り組み

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	第 9 章	大交易・大交流の時代 2. ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容	○	○	○	ヨーロッパの人々が海洋進出した動機・背景を多面的・多角的に考察・表現する。 また、アジア・アメリカに与えた影響や変化を理解する。 「世界の一体化」の性格を多角的に考察する。	宿題テスト 定期考査 単元テスト 提出物
	第 10 章	アジアの諸帝国の繁栄 1. オスマン帝国とサファヴィー朝 2. ムガル帝国の興隆 3. 清代の中国と隣接地域	○	○	○	オスマン帝国の成立・勢力拡大の経過、統治が人々に与えた影響を理解する。 ムガル帝国成立から衰退の経緯・要因を理解する。 ムガル帝国内におけるイスラーム教徒とヒンドゥー教徒の関係を考察する。 清朝に組み込まれた民族とその統治方法、漢人社会・文化への対応を理解する。 清朝と周辺諸国との関係を考察する。	
	第 11 章	近世ヨーロッパ世界の動向 1. ルネサンス	○	○	○	ルネサンスの担い手・彼らの動機を理解する。 ルネサンスを支えた思想の特徴を理解し、後世に与えた影響を理解する。	
1 学期 期末	第 11 章	近世ヨーロッパ世界の動向 2. 宗教改革 3. 主権国家体制の成立	○	○	○	今までの教会改革と 16 世紀の宗教改革の違いを考察する。 カルヴァンの教えの特徴、イギリス国教会成立の意義を理解する。 カトリック改革の世界史的意義を考察する。 主権国家体制成立の経緯を多面的に考察する。	定期考査 単元テスト 提出物

		4. オランダ・イギリス・フランスの台頭			16 世紀後半のスペイン・イギリス・フランスの関係、アウクスブルクの和議とウェストファリア条約の相違点を理解する。	
		5. 北欧・東欧の動向			オランダの経済的派遣獲得と衰退の要因を理解する。	
					イギリスの革命について、国際的な状況をふまえて理解する。	
					近世フランスの強みと課題を考察する。	
					イギリスとフランスの覇権争いがグローバルな戦いになった背景を理解する。	
					主権国家体制において、ポーランド・スウェーデン・ロシアの位置づけを理解する。	
					プロイセンとオーストリアの関係の推移を考察する。	
		6. 科学革命と啓蒙思想			啓蒙専制主義の特徴を理解する。	
					科学革命の成果、ヨーロッパに与えた影響を理解する。	
					啓蒙思想の意義を理解する。	
2 学 期 中 間	第 12 章	産業革命と環大西洋革命 1. 産業革命	○	○	○	宿題テスト 定期考査 単元テスト 提出物
		2. アメリカ合衆国の独立と発展				
		3. フランス革命とナポレオンの支配				
					海外貿易がヨーロッパ経済に与えた影響、イギリス産業革命が世界経済・社会に与えた影響を多面的に理解する。	
					16 世紀以降の「世界の一体化」とイギリス産業革命の関係について考察する。	
					北米大陸に建設されたヨーロッパ諸国の植民地の分布と推移を理解する。	
					独立直後と現代アメリカを比較、共通点・相違点を理解する。	
					アメリカ合衆国独立がヨーロッパ諸国に与えた影響を考察する。	
					革命中のフランス国家体制の変遷・革命が外国に与えた影響を理解する。	
					人権宣言とアメリカ独立宣言の共通点・相違点を理解する。	
					ナポレオンの支配に対する人々の反応を考察する。	

		4. 中南米諸国の独立				ハイチ革命の特殊性について、環大西洋革命の他の事例と比較して理解する。 中南米諸国の独立運動の共通点を理解する。
2 学 期 末	第 13 章	イギリスの優位と欧米 国民国家の形成 1. ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 2. 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 3. アメリカ合衆国の発展 4. 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	○	○	○	ウィーン会議が目指した国際秩序を理解する。 ウィーン体制を動揺させた要因を考察する。 19世紀イギリスの政治変革の特徴、当時の社会主義思想を理解する。 1848年革命の展開と影響について、地域差に着目して考察する。 クリミア戦争におけるロシア・イギリス・フランスの思惑を理解する。 19世紀後半のロシア・イギリス・フランスの改革の相違点を理解する。 ドイツ・イタリアの国民国家成立その後の政策を考察する。 北欧諸国の安定性について、周辺諸国と比較、考察する。 19世紀後半の国際運動が進展した背景を理解する。 領土拡大がアメリカ社会に与えた影響、南北戦争で北部が勝利した要因を理解する。 アメリカ合衆国史における移民の持つ意味を考察する。 19世紀欧米文化の担い手・展開された場の推移を理解する。 国民文化と国民国家形成の関係を考察する。 近代科学の発展の要因とその成果が広まった背景を考察する。 大都市文化が都市の景観に与えた影響を考察する。

3 学 期	第 14 章	アジア諸地域の動揺 1. 西アジア地域の変容 2. 南アジア・東南アジアの植民地化 3. 東アジアの激動	○	○	○	オスマン帝国の動揺の要因を考察する。 オスマン帝国の列強への経済的従属化の経緯、改革の成果と課題を理解する。 ロシアとイギリスの競合関係が西アジアに与えた影響を多面的に理解する。 ヨーロッパ各国の東インド会社が南アジアでおこなった活動を理解する。 イギリス東インド会社の機能の変化を考察する。 東インド会社の統治とイギリスによるインド直接統治の特徴を理解する。 東南アジアの植民地化の経緯、タイが植民地化されなかった要因を理解する。 清朝の危機の要因、開港の背景と開港の進展を理解する。 清朝による国内秩序再建の試みについて、その成果と課題を理解する。 欧米諸国の進出と日本の台頭が東アジアに与えた影響を考察する。	定期考査 単元テスト 提出物
	第 15 章	帝国主義とアジアの民族運動 1. 第2次産業革命と帝国主義 2. 列強の世界分割と列強体制の二分化 3. アジア諸国の変革と民族運動	○	○	○	新しく生まれた製品が人々の日常生活に与えた影響を理解する。 帝国主義支配下の社会・文化の変化を考察する。 各列強の国内事情・課題を理解する。 この時期に国際労働運動が再燃した背景・特徴を考察する。 列強の植民地化によるアフリカの社会・文化の変容を考察する。 列強による太平洋地域の植民地化の経緯を理解する。 独立後の南米諸国を比較し、共通点と相違点を理解する。 20世紀初頭の列強体制の枠組みの変化を考察する。 日清・日露戦争が中国・東アジアに与えた影響を考察する。 清朝が倒れた原因を理解する。	宿題テスト 定期考査 単元テスト 提出物

						インド民族運動の背景を考察する。 東南アジア・西アジアの民族運動の共通 点を理解する。	
--	--	--	--	--	--	---	--

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	理科	科目	理科基礎演習Ⅰ	単位数	2	学年	2	選択	B 選択
教科書	「新編 化学基礎」(東京書籍) 「新編 生物基礎」(数研出版)								
副教材	「ネオパルノート 化学基礎」(第一学習社) 「新編 生物基礎 サポートノート」(数研出版) 「生物基礎 学習ノート」(数研出版)								

1 学習の到達目標

- 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
- 生物学が日常生活や社会と深く結びついていること実感し、理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- 生徒同士がコミュニケーションを図り、対話的に学習する力を養う。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

教科書の続きと、問題集の演習を行います。進路実現に向けて、化学基礎と生物基礎の学力を向上させましょう。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観 点	Ⅰ：知識・技能(技術)	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1学期 中間	物質の変化	3節 溶液の濃度 ・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。	○	○	○	I：モル濃度について理解している。 II：水溶液の調整について、友達と話し合いながら確認し、誤ったガラス器具の使い方で行く現象についての問題を見いだす活動を行っている。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
		4節 化学反応の表し方 ・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。	○		○	I：化学反応式やイオン反応式について理解している。 III：授業中の態度、提出物	
		5節 化学反応式の表す量的関係 ・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。 ・化学反応の表す量的関係について発表する。 ・化学変化に伴う質量変化に注目した化学の基本法則を知る。	○	○	○	I：化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解している。 II：化学反応における量的関係について、化学反応式の係数が物質の比を表していることを見出そうとしている。 III：授業中の態度、提出物	
1学期 期末	物質の変化	2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 ・酸と塩基の性質について理解する。・アレニウスの酸・塩基の定義を理解する。 ・ブレンステッド・ロー	○	○	○	I：酸と塩基の性質及び定義を理解している。 II：酸と塩基の強弱と電離度の関係性を予想し、実験などを通じて関係性を見いだし表現できる。 III：実験や授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

	リーの酸・塩基の定義を理解する。 ・酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを考察する。				
	2 節 水素イオン濃度と pH ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・pH 指示薬と変色域により、水溶液の pH が測定できることを知る。 ・実験観察を通して、身近な物質の pH や希釈した水溶液の pH の変化を比較し考える。	○	○	○	I : 水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度や pH で表せることを理解している。pH 指示薬について理解している。 II : 身近のまわりの物質の pH を測定し、友達と話し合いながら様々な比較を加えて考えようとしている。 III : 実験や授業中の態度、提出物
	3 節 中和反応と塩の生成 ・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が中性になるとは限らないことがわかる。 ・実験観察を通して、塩の水溶液の pH を測定する。その塩をつくるもとになった酸、塩基の強弱を比較して考察する。	○	○	○	I : 酸と塩基が完全に中和するときの化学反応式及び塩の水溶液について理解している。 II : 身近のまわりの物質の pH を測定し、様々な比較を加えて考えようとしている。 III : 実験や授業中の態度、提出物
	4 節 中和滴定 ・中和の条件は、酸から生じる H^+ の物質量和塩基から生じる OH^-	○	○	○	I : 酸と塩基の中和反応に関与する物質の量的関係について理解している。 II : 器具の扱い方や溶液の調製方法など中和滴定操作における基本的な技術を

		の物質量が等しくなることだとわかる。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。 ・実験観察を通して基本的な技能から食酢の濃度を求め、得られた結果を分析して中和反応の量的関係を理解する。 ・酸と塩基の組み合わせによる滴定曲線を比較し、適切な指示薬の使い分けを理解する。				習得するとともに、実験などを通じて結果を分析し解釈することができる。 Ⅲ：実験や授業中の態度、提出物	
2	物質の変化	3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元 ・酸化と還元は常に同時に起こることを知る。 ・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。	○	○	○	Ⅰ：酸化と還元が電子の授受によることを理解している。 Ⅱ：酸化と還元の定義について、友達と話し合いながら確認し、酸化数の増減について見いだす活動を行っている。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
		2節 酸化剤と還元剤 ・代表的な酸化剤、還元剤としては、過マンガン酸カリウムや過酸化水素、ヨウ化カリウムであることを知る。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関	○	○	○	Ⅰ：酸化還元反応式の反応式について理解している。 Ⅱ：酸化還元滴定操作における基本的な技術を習得するとともに、実験などを通じて結果を分析し解釈することができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	

	係を理解する。 ・酸化還元滴定に用いる器具の使い方がわかり、実験操作を理解する。				
	3 節 金属の酸化還元反応 ・実験観察を通して金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを知る。 ・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。	○	○	○	I：金属のイオン化傾向について理解している。 II：金属の陽イオンへのなりやすさを比較測定し、友達と話し合いながら科学的に考察している。 III：授業中の態度、提出物
	4 節 酸化還元反応の応用 ・実験観察を通して、金属のイオン化傾向と電流の流れる向きを比較し関係性を考える。 ・身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を知る。 ・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。	○	○	○	I：電池の構造やしくみ及び金属の製錬について理解している。 II：電池について構造とその用途について、友達と話し合いながらそれらは身のまわりでどのように使われているという視点で考えようとしている。 III：授業中の態度、提出物
	終章 化学が拓く世界 ・化学基礎で学んできたことが日常生活や社会生活を支えている科学技術と結びついて理解する。	○	○	○	I：学んできた事柄が日常生活や社会を支えている科学技術と結びついて理解する。 II：日常生活や社会を支えている科学技術について、友達と話し合い、その用途や社会課題に対する解決策などを様々

						な視点で考察している。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
2 学 期 末	生 物 の 多 様 性 と 生 態 系	第1節 植生と遷移 ・いろいろな植生とその特徴を理解する。 ・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。 ・身近な植生にはどのような特徴をもつものがあるかを調べる。 ・遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について理解する。 第2節 植生の分布とバイオーム ・世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解する。 ・日本の各地域でどのようなバイオームが成立する可能性があるかを推測する。 ・気温・降水量と陸上のおもなバイオームの関係を示した資料をもとに、森林・草原・荒原のいずれになるかを定める要因を理解する。 ・日本の気候の特徴をもとに、日本に分布するバイオームについて	○	○	○	I：いろいろな植生とその特徴を理解している。 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解している。 II：遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。 長い年月をかけて進行する植生の遷移を調べるには、どのような方法が考えられるか、自分の考えをまとめることができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
			○	○	○	I：世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解している。 II：日本の各地域でどのようなバイオームが成立する可能性があるかを推測し、表現できる。 気温・降水量と陸上のおもなバイオームの関係を示した資料をもとに、森林・草原・荒原のいずれになるかを定める要因に気づき、説明できる。 日本の気候の特徴をもとに、日本に分布するバイオームについて考察し、説明できる。 標高の高い場所で森林が見られない理由を考察し、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	

	理解する。 ・標高の高い場所で森林が見られない理由を理解する。					
	第3節 生態系と生物の多様性 ・生態系がどのように構成されているのかを理解する。 ・生態系において種多様性が維持されるしくみを理解する。 ・身近な土壌に生息している生物の種類を確かめる。 ・生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、理解する。	○	○	○	I：生態系がどのように構成されているのかを理解している。 ・生態系において種多様性が維持されるしくみを理解している。 II：身近な土壌に生息している生物の種類を確かめ、表現できる。 生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 III：授業中の態度、提出物	
	第4節 生態系のバランスと保全 ・生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解する。 ・生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解する。 ・水質と生息する生物の関係について考察する。 ・生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみ	○	○	○	I：生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解している。 生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解している。 II：水質と生息する生物の関係について考察し、表現できる。 生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、説明できる。 外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、説明できる。 生態系への影響が予想される開発行為について、さまざまな観点・立場で考え、話し合い、解決策を模索することができる。	

		を考察し，理解する。 ・外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに，外来生物が在来魚に与えた影響を考察し，理解する。				Ⅲ：授業中の態度、提出物	
3 学 期	演 習	・化学基礎の問題演習と解説 ・生物基礎の問題演習と解説	○	○	○	Ⅰ：化学基礎・生物基礎について、全般的に理解している。 Ⅱ：思考判断をしながら、計算問題や論述問題に取り組み、解答できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	理科	科目	化学演習	単位数	2	学年	3	選択	B 選択
教科書	化学 Vol.2 物質編（東京書籍）								
副教材	セミナーノート化学（第一学習社）								

1 学習の到達目標

化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。また、入試に対応できる基礎力・応用力を育成する。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

化学についての基礎知識から計算能力までを学び、特に有機化学の分野の理解を深めていき、入試に通用する力を身につけていきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1学期中間	有機化合物	5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 1節 有機化合物の特徴 2節 有機化合物の構造式の決定	○	○	○	I：炭化水素が最も基本的な有機化合物であることを知り、その分類について理解する。 II：有機化合物の構成元素の種類が少ないにもかかわらず、化合物の種類が極めて多いことを理解する。有機化合物の特徴を無機化合物と比較して理解する。元素分析の方法を確認し、組成式の決定方法について理解する。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
1学期期末	有機化合物	2章 炭化水素 1節 飽和炭化水素 2節 不飽和炭化水素 3章 アルコールと関連化合物 1節 アルコールとエーテル 2節 アルデヒドとケトン	○	○	○	I：アルカン・アルケン・アルキンの名称と性質を理解し、命名法を理解する。結合と回転関係について理解する。 II：異性体について理解し命名する。溶解について理解し、濃度計算ができる。付加反応、酸化反応、付加重合について、それぞれの特徴を元に理解する。 III：授業中の態度、提出物 I：アルコールの構造とさまざまな分類方法について理解する。アルコールとエーテルには、構造の違いによってどのような性質や反応の違いがあるのかを予想する。アルコールの酸化や脱水について理解する。 II：アルコールやアルデヒドの酸化還元反応について説明できる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
2学期中間	有機化合物	3節 カルボン酸 4節 エステル・油脂・セッケン	○	○	○	I：ギ酸と酢酸の製法と性質、構造について理解する。酸無水物の特徴について確認し、マレイン酸・フマル酸の構造とその特徴を理解する。エステルの構造について確認し、生成方法を理解する。 II：カルボン酸が水溶液中でわずかに電離して弱い酸性を示すことを理解する。不斉炭素原子について理解し、不斉炭素原子をもつ化合物に鏡像異性体の関係が存在することを確認する。セッケンの製法について確認する。	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

		4章 芳香族化合物 1節 芳香族炭化水素 2節 フェノール類と芳香族カルボン酸 3節 芳香族アミンとアゾ化合物 4節 芳香族化合物の分離			油脂の分子量と必要な塩基の量について考える。セッケンの洗浄作用について、表面張力・ミセル・乳化という言葉を使って説明する。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：ケクレ構造や芳香族化合物とは何かを理解し、オルト・メタ・パラの構造異性体について知る。ハロゲン化、スルホン化、ニトロ化やベンゼンの付加反応について、その製法と特徴について理解する。主なフェノール類の構造と特徴を理解する。クメン法について理解する。芳香族化合物の合成方法と性質について理解する。 Ⅱ：フェノールは弱酸で、カルボン酸や炭酸よりも弱い酸であることを確認し、弱酸遊離の反応を確認する。フェノール類の呈色反応と反応について理解する。フェノール類や芳香族カルボン酸の反応や性質、製法について理解する。芳香族化合物の混合物から各化合物を分離する操作を説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
2 学 期 期 末	高 分 子 化 合 物	6編 高分子化合物 1章 高分子化合物とは何か 1節 高分子化合物の分類と特徴 2章 天然高分子化合物 1節 単糖類と二糖類 2節 多糖類 3節 アミノ酸 4節 タンパク質	○	○	○ Ⅰ：高分子化合物とは何かを理解し、その分類について知る。 Ⅱ： 合成高分子化合物の種類を理解し、さまざまな種類の縮合反応を確認する。平均分子量を理解し、合成高分子の多くが結晶部分と非晶部分が入り混じった不均一な構造をとり、その割合によって性質が異なることを理解する。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：各糖類の特徴と構造について理解する。 α -アミノ酸の一般的な構造式を確認し、グリシン、アラニン、グルタミン酸の構造について確認する。また、鏡像異性体について理解する。タンパク質の一次構造、二次構造、三次構造、四次構造	定期考查 小テスト 課題 実験活動 授業態度

		3 章 合成高分子化合物 1 節 合成繊維 2 節 合成樹脂 3 節 ゴム			について基本的な要素を理解する。 Ⅱ：アミノ酸の電離平衡について確認し、等電点について理解する。タンパク質の塩析、変性について理解する。タンパク質の呈色反応を説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：ナイロン66、ナイロン6の構造と特徴・用途、それぞれの単量体について理解する。アラミド繊維の特徴・用途を構造から確認する。ポリエチレンテレフタートの構造と特徴・用途・単量体について確認する。熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂、イオン交換樹脂について理解している。天然ゴム、合成ゴムについて理解する。 Ⅱ：ビニロンについてその製法・性質・用途について理解する。アクリル繊維、炭素繊維の特徴・用途について理解する。各樹脂の製法・性質・用途を説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物		
3 学期	化学が果たす役割	7 編 化学が果たす役割 1 章 化学的性質の利用と工業的製法 1 節 ハロゲンの性質と酸化還元反応の応用 2 節 物質の工業的製法 2 章 未来を創る化学 1 節 物質を通して未来を創る 2 節 物質を通して未来を考える	○	○	○	Ⅰ：さまざまな物質について、日常生活や社会との関係を考える。 Ⅱ：鉄の精錬，銅の製造，アルミニウムの製造，有機工業化学，高分子化合物に関する文を読み，それぞれの社会への関わりを考え，意見交換し，レポートにまとめたり，発表したりする。これまで学習してきた内容を踏まえて，これまでをまとめ，未来に向けてどうあるべきかを考え，議論する。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	理科	科目	生物演習	単位数	2	学年	3	選択	B 選択
教科書	「生物」(数研出版)								
副教材	「リード Light ノート 生物」(数研出版)								

1 学習の到達目標

- ・生物学が日常生活や社会と深く結びついていること実感し、理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・生徒同士がコミュニケーションを図り、対話的に学習する力を養う。
- ・大学入試共通テスト、大学入試二次試験に対応できるように理論を理解した上で過去の入試問題、模擬試験の問題演習を行う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

大学入試二次試験に対応できるよう、しっかりと理論・概念を学習し、探究的な応用力を身につける。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト ・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1学期 中間	遺伝情報の発現と発生	第4節 発生と遺伝子発現 ・発生と遺伝子の関係性について理解する。 ・同じ遺伝情報をもつ細胞が異なる細胞に分化する要因として、細胞質に含まれる物質が分裂の際に不均等に分配されることや、周囲の細胞からの誘導があることを理解する。	○	○	○	I：発生の過程で、遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解する。 II：同じ遺伝情報をもつ細胞が異なる細胞に分化する要因として、細胞質に含まれる物質が分裂の際に不均等に分配されることや、周囲の細胞からの誘導があることを理解し、説明することができる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
		第5節 遺伝子を扱う技術 ・遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解する。 ・バイオテクノロジーについて、その恩恵と課題を理解する。	○	○	○	I：遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解する。 II：遺伝子組換え技術によって、ある生物の遺伝子を別の生物に発現させることができる理由を考え、説明することができる。 III：授業中の態度、提出物	
1学期 期末	動物の反応と行動	第1節 刺激の受容 刺激の受容から行動まで、受容器と適刺激、視覚器、その他の受容器 第2節	○	○	○	I：視覚は、眼の網膜で受容された光刺激の情報が、神経によって脳に伝えられて生じることを理解する。 II：受容器の種類によって、刺激を受け取るしくみがそれぞれ異なることを理解し、説明できる。 III：授業中の態度、提出物	

		ニューロンとその興奮 受容器から脳への連 絡、ニューロンの構 造、ニューロンの興 奮、興奮の伝導と伝 達	○	○	○	I：ニューロンの興奮は細胞膜で生じる 電気的な変化であり、イオンチャネルや ポンプのはたらきで生じることを理解 する。 II：ニューロンに生じた興奮が軸索を伝 わり、シナプスを介して次のニューロン へと伝えられることを理解し、説明でき る。 III：授業中の態度、提出物	
		第3節 情報の統合 神経系、中枢神経系	○	○	○	I：ヒトの神経系が、末しょう神経系と 中枢神経系から構成されていることを 理解する。 II：ヒトの脳の構造とはたらきについて 理解する。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
		第4節 刺激への反応 筋肉の構造と収縮	○	○	○	I：効果器である筋肉の構造を理解す る。 II：筋肉が、神経系から伝達されてきた 刺激を受け取って収縮するしくみを理 解し、説明できる。 III：授業中の態度、提出物	
		第5節 動物の行動 動物の行動とその連 鎖、いろいろな生得 的行動、学習と記憶	○	○	○	I：動物の行動は生得的な行動と学習に よって得る行動があることを理解する。 II：動物の行動は、遺伝的にプログラム された生得的な行動と経験によって変 化する学習行動によって形成されるこ とを理解し、説明できる。 III：授業中の態度、提出物	
1 学 期 期 末		第1節 植物の生活と 環境ホルモン 植物の生活と反応	○	○	○	I：植物は、周囲の環境の変化を感知し て、自らのからだを適切な時期に適切 な状態へと変化させていることを理解 する。 II：環境からの情報の伝達には、植物ホ	

植物の環境応答			○	○	○	ルモンがはたらいていることを理解し、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
	第2節 発芽の調節 種子の休眠と発芽， 種子の発芽と光		○	○	○	I：植物の種子が，周囲の環境を感知して休眠・発芽するしくみと，その意義を理解する。 II：植物の種子が，周囲の環境を感知して休眠・発芽するしくみを理解して，説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
	第3節 成長の調節 植物の成長と光，植物の成長と重力		○	○	○	I：植物の成長は，光や重力などの要因によって調節されていることを理解する。 II：植物の成長の調節には，植物ホルモンが重要なはたらきをしていることを理解し、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
	第4節 器官の分化と花芽形成の調節 植物の器官と組織， 花芽形成の調節		○	○	○	I：植物は，葉，茎，根，花といった器官からなり，これらの器官への分化を通して植物が成長していくことを理解する。 II：植物の器官の分化は，成長の段階や環境の変化に応じて調節されていることを理解し、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
	第5節 環境の変化に対する応答 物質の出入りの調節，植物の防御応答		○	○	○	I：植物が，環境要因の変化に応じて，気孔を開閉し，二酸化炭素や水の出入りを調節するしくみを理解する。 II：植物が，病気や食害，生育に不適当な環境で，どのように自身を守っているのかを理解し、説明できる。	

		第 6 節 配偶子形成と受精 被子植物の配偶子形成と受精，胚や種子の形成と果実の成熟	○	○	○	Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：被子植物における配偶子形成と受精のしくみを理解する。 Ⅱ：種子の形成や果実の成熟のしくみを理解し、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
2 学期 中間	生物群集と生態系	第 1 節 個体群の構造と性質 個体群，個体群の成長と密度効果，個体群の年齢構成と生存曲線 第 2 節 個体群内の個体間の関係 群れ，縄張り，社会の構造と分業 第 3 節 異なる種の個体群間の関係 生物群集，被食者－捕食者相互関係，種間競争，生態的地位と共存，さまざまな共生，かく乱と種の共存	○	○	○	Ⅰ：個体群の成長のしかたには個体群密度が影響していることを理解する。生物の生存曲線の型は，その生物の年齢ごとの死亡率によって大別されることを理解する。 Ⅱ：個体群の成長のしかたと個体群密度の関係や、生物の生存曲線の型と年齢ごと死亡率の関係を理解し、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：同種の動物が集まって暮らすことで生じる利益と不利益を理解する。動物の個体群内の個体どうしの間で、どのような関係が見られるか理解する。 Ⅱ：同種の動物が集まって暮らすことで利益・不利益の生じるしくみや、動物の個体群内の個体どうしの関係からなる現象を説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：生態系は異なる生物種からなる個体群の集まりで構成されており，個体群どうしは互いに深く関係していることを理解する。 Ⅱ：生物群集の中で多様な生物種が共存できるしくみを理解し、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

		第 4 節 生態系の物質生産と物質循環 生態系の構成とつながり，生態系における物質生産，生態系における物質収支，物質循環とエネルギーの流れ	○	○	○	I：上位の栄養段階の生物では，利用できるエネルギー量にかぎりがあることを理解する。生態系における物質の循環とエネルギーの移動について，それぞれの特徴を理解する。 II：生態系における物質の循環とエネルギーの移動について説明できる。 III：授業中の態度、提出物	
		第 5 節 生態系と人間生活 生物多様性とその恩恵，人間活動が生態系に影響を与えるしくみ，私たちの生活と生態系	○	○	○	I：生態系や生物多様性の保全の重要性を理解する。人間活動によって生態系に影響を及ぼすしくみを理解する。 II：生態系や生物多様性の保全の重要性、人間活動による生態系への影響を及ぼすしくみを理解し、説明できる。 III：授業中の態度、提出物	
2 学 期 期 末		入試問題演習	○	○	○	I：模試、共通テスト対策演習の演習をとおし、生物界でおこる現象について理解を深める。 II：模試、共通テスト対策演習の演習をとおし、生物界でおこる現象について説明できる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 授業態度
3 学 期 期 末		入試問題演習	○	○	○	I：模試、共通テスト対策演習の演習をとおし、生物界でおこる現象について理解を深める。 II：模試、共通テスト対策演習の演習をとおし、生物界でおこる現象について説明できる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 授業態度

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	芸術	科目	ピアノレッスン	単位数	2	選択等	B 選択
教科書	なし						
副教材等	各生徒のピアノの進度に沿った練習曲集（バイエル・ツェルニー他）						

1 学習の到達目標

・保育の音楽活動を支えるピアノ演奏の基礎を習得する。童謡の伴奏の技術を身に付ける。 ・ピアノ経験者は、曲に応じた表現を習得する。読譜力を向上させる。 ・曲に応じた音楽性をピアノで豊かに表現できる。
--

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

各生徒のレベルにあった楽曲を選択しますが、既習曲ではなく、新曲をマスター出来るように頑張ります。3 学期には、発表会形式で人前での演奏ができるように、練習を積み重ねましょう！

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	ピアノ音楽の背景、それぞれの楽曲の特徴に関する知識を身に付けている。 楽譜の読譜力、楽曲に見合う演奏技術、指番号、和音や音階の理解とに関する技術を身に付けている。	童謡やクラシックのピアノ曲の特徴を捉え、実践する。課題を見だし、思考を深め、ピアノ音楽、幼児教育の推進に創意工夫し、表現する能力を身に付けている。	ピアノ実技・保育に関心を持ち、取り組もうとする意欲と態度を身に付けている。
評 価 方 法	グレードの進捗状況 実技テスト 公開演奏	グレードの進捗状況 実技テスト 公開演奏	グレードの進捗状況 自由曲の選曲の仕方 受講票 学習態度で評価
上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期	ピアノ実技	基礎和音 No.1～6	○	○	○	ハ長調のドミソ・ドファラ・シレソの基礎三和音を覚え、童謡の簡単な伴奏に結びつけることが出来る	実技テスト
		スケール ハ長調（2 オクターブ）	○	○	○	ハ長調の音階を理解し、音域の広い旋律での指くぐりを身に付け、演奏技術向上につなげることが出来る。	実技テスト
		練習曲グレード（バイ	○	○	○	練習曲を通し、音・休符、リズムを理	実技・進捗

		エル、ツェルニー) 自由曲 練習グレードによって課題曲の中から各自で選択	○	○	○	解し読譜力を身に付ける。 童謡やクラシックの楽曲の特徴を捉え、ピアノ曲の演奏を通して表現している。	状況 実技テスト (2回)
2 学 期	ピ ア ノ 実 技	基礎和音 No.7～8	○	○	○	1 学期に既習したハ長調のドミソ・ドファラ・シレソの基礎三和音の形を変え、童謡の簡単な伴奏に結びつけることが出来る	実技テスト
		スケール イ短調・ト長調 (2 オクターブ)	○	○	○	ハ長調以外の調性感覚を養い、あらゆる調性の＃記号に対応。	実技テスト
		練習曲グレード (バイエル、ツェルニー)	○	○	○	練習曲を通し、音・休符、リズムを理解し読譜力を身に付ける。	実技・進捗 状況
		自由曲 練習グレードによって課題曲の中から各自で選択	○	○	○	童謡やクラシックの楽曲の特徴を捉え、ピアノ曲の演奏を通して音楽の感性を養う。	実技テスト (2回)
3 学 期	ピ ア ノ 実 技	スケール ヘ長調 (2 オクターブ)	○	○	○	ハ長調以外の調性感覚を養い、あらゆる調性の♭記号に対応。	実技テスト
		練習曲グレード (バイエル、ツェルニー)	○	○	○	練習曲を通し、音・休符、リズムを理解し読譜力を身に付ける。	実技テスト
		自由曲 (各自が選曲)	○	○	○	1 年を通して、あらゆるジャンルの曲の中から自由に選曲し、音楽性、ピアノ技術を身に付け、表現力出来る。	公開演奏
		受講票の整理			○	既習曲を記録、公開演奏の感想を書き 1 年を振り返る。	学習態度

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	外国語 (英語)	科目	英語演習 A	単位数	2	学年	2	選択	B 選択
教科書	なし								
副教材 等	SPRINT2 英語総合問題集 (文英堂)								

1 学習の到達目標

語・句の「相互作用」である英語の「構文」に習熟していきながら、文法や語彙に対する理解を高め、読解力や表現力の養成をする。

長文読解のみならずリスニングやライティングを通じて英語 4 技能を総合的に伸ばしていく。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

「構文」を意識しながら、英語 4 技能 (Reading・Speaking・Writing・Listening) をバランスよく伸ばしていきましょう。

また、グループ学習を通して積極的にコミュニケーションを図り、理解を深めるようにしましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の 4 技能 (話す、書く、聞く、読む) について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	場面、目的、状況に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評 価 方 法	・ 学習状況 ・ 単元テスト ・ 定期考査 ・ 発問への対応	・ 学習状況 ・ 単元テスト ・ 定期考査 ・ 発問への対応	・ 学習状況 ・ 単元テスト ・ 定期考査 ・ 発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		Unit 1	○	○	○	Unit 1 【Reading】 ・日本が長寿国である理由を理解する。 ・5つの文型を理解しながら英文を読んだり書いたりする。 ・ビジネスに関する英単語を理解する。 【Listening】 ・There is / are の聞き取りができる。	学習態度 問題演習 単元テスト 中間考査
		Unit 2	○	○	○	Unit 2 【Reading】 ・ニュートンの発明のきっかけを理解する。 ・現在完了形を理解し英文を読んだり書いたりする。 ・単語の意味の違いを理解する。 【Listening】 ・SVC の聞き取りができる。	学習態度 問題演習 単元テスト 中間考査
		Unit 3	○	○	○	Unit 3 【Reading】 ・インドの祭りの由来の物語を理解する。 ・接続詞を理解しながら英文を読んだり書いたりする。 ・祭りに関する単語を理解する。 【Listening】 ・SVO の聞き取りができる。	学習態度 問題演習 単元テスト 中間考査
1 学期 期		Unit 4	○	○	○	Unit 4 【Reading】 ・受け皿の歴史の物語を理解する。 ・助動詞 will, would, should の特別用法	学習態度 問題演習 単元テスト

末		Unit 5	○	○	○	を理解する。 ・多数の情報を推測して読むことができる。 【Listening】 ・SVOO の聞き取りができる。	期末考查
		Unit 6	○	○	○	Unit 5 【Reading】 ・配達ミスの結果の物語を理解する。 ・受動態（助動詞を含む受動態、進行形の受動態、現在完了の受動態）を理解しながら英文を読んだり書いたりする。 ・コミュニケーションに関する英単語を理解する。 【Listening】 ・SVOC の聞き取りができる。 Unit 6 【Reading】 ・車いすのロッククライマー物語を理解する。 ・受動態（受動態の否定文、受動態の疑問文、疑問詞を使う受動態の疑問文）を理解しながら英文を読んだり書いたりする。 ・単語のアクセントを理解する。 【Listening】 ・疑問文と応答の聞き取りができる。	学習態度 問題演習 単元テスト 期末考查 学習態度 問題演習 単元テスト 期末考查
2 学 期 中 間		Unit 7	○	○	○	Unit 7 【Reading】 ・冬休みの思い出の物語を理解する。 ・不定詞の基本的な用法を理解しながら英文を読んだり書いたりする。 ・単語のアクセントを理解する。 【Listening】 ・疑問詞の聞き取りができる。	学習態度 問題演習 単元テスト 中間考查
		Unit 8	○	○	○	Unit 8 【Reading】 ・アメリカでの豆腐の歴史の物語を理解	学習態度

		Unit 9	○	○	○	する。 ・不定詞（疑問詞+不定詞, It ... to~, S + V + it ... to~）を理解しながら英文を読んだり書いたりする。 ・英文とグラフを対照させて情報を処理する。 【Listening】 ・疑問詞の聞き取りができる。	問題演習 単元テスト 中間考査
		Unit 9	○	○	○	Unit 9 【Reading】 ・ネコの世界旅行の物語を理解する。 ・動名詞の基本的な用法を理解しながら英文を読んだり書いたりする。 ・インターネットに関する単語を理解する。 【Listening】 ・疑問詞の聞き取りができる。	学習態度 問題演習 単元テスト 中間考査
2 学 期 期 末		Unit 10	○	○	○	Unit 10 【Reading】 ・スタンディングデスクの物語を理解する。 ・動名詞（動名詞の否定形、意味上の主語）を理解しながら英文を読んだり書いたりする。 ・子音の発音を理解する。 【Listening】 ・疑問詞の聞き取りができる。	学習態度 問題演習 単元テスト 期末考査
		Unit 11	○	○	○	Unit 11 【Reading】 ・宇宙でのガーデニングの物語を理解する。 ・分詞を理解しながら英文を読んだり書いたりする。 ・医学に関する単語を理解する。 【Listening】 ・時刻・曜日の聞き取りができる。	学習態度 問題演習 単元テスト 期末考査
		Unit 12	○	○	○	Unit 12	

					【Reading】 ・地球温暖化が経済にあたえる影響についての長文を理解する。 ・比較（原級・比較級）を理解しながら英文を読んだり書いたりする。 ・図表から適切な情報を抽出・計算する。 【Listening】 ・助動詞の聞き取りができる。	学習態度 問題演習 単元テスト 期末考査	
3 学 期		Unit 13	○	○	○	Unit 13 【Reading】 ・ピカソの絵画の物語を理解する。 ・比較（最上級）を理解しながら英文を読んだり書いたりする。 ・芸術に関する単語を理解する。 【Listening】 ・受動態の聞き取りができる。	学習態度 問題演習 単元テスト 学年末考査
		Unit 14	○	○	○	Unit 14 【Reading】 ・和紙の物語を理解する。 ・関係代名詞の基本的な用法を理解しながら英文を読んだり書いたりする。 ・単語のアクセントを理解する。 【Listening】 ・不定詞 / 動名詞の聞き取りができる。	学習態度 問題演習 単元テスト 学年末考査
		Unit 15	○	○	○	Unit 15 【Reading】 ・世界の水不足の物語を理解する。 ・関係代名詞（前置詞と関係代名詞、関係代名詞 what ）を理解しながら英文を読んだり書いたりする。 ・自然環境に関する単語を理解する。 【Listening】 ・分詞の聞き取りができる。	学習態度 問題演習 単元テスト 学年末考査

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	外国語 (英語)	科目	英語演習 A	単位数	2	学年	3	選択	B 選択
教科書	なし								
副教材 等	SPRINT3 英語総合問題集 改訂版 (文英堂)								

1 学習の到達目標

語・句の「相互作用」である英語の「構文」に習熟していきながら、文法や語彙に対する理解を高め、読解力や表現力の養成をする。

長文読解のみならずリスニングやライティングを通じて英語 4 技能を総合的に伸ばしていく。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

「構文」を意識しながら、英語 4 技能 (Reading・Speaking・Writing・Listening) をバランスよく伸ばしていきましょう。

また、グループ学習を通して積極的にコミュニケーションを図り、理解を深めるようにしましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の 4 技能（話す、書く、聞く、読む）について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	場面、目的、状況に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評 価 方 法	・ 学習状況 ・ 単元テスト ・ 定期考査 ・ 発問への対応	・ 学習状況 ・ 単元テスト ・ 定期考査 ・ 発問への対応	・ 学習状況 ・ 単元テスト ・ 定期考査 ・ 発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		Unit 1 シズカの友人（物語）	○	○	○	Unit 1 【Reading】 文を構成する要素① 【Listening】 今後の予定の聞き取り	学習態度 問題演習 単元テスト 中間考査
		Unit 2 空腹と怒りの関係 （説明文／人体）	○	○	○	Unit 2 【Reading】 文を構成する要素② 【Listening】 発言内容の聞き取り	
		Unit 3 夏休み（メール）	○	○	○	Unit 3 【Reading】 時制（完了形） 【Listening】 次を取る行動などの聞き取り	
1 学期 期末		Unit 4 キャッシュレス社会 （説明文／経済）	○	○	○	Unit 4 【Reading】 助動詞 【Listening】 否定文の聞き取り	学習態度 問題演習 単元テスト 期末考査
		Unit 5 サッカーボールの歴史 （説明文／スポーツ）	○	○	○	Unit 5 【Reading】 文型と受動態／群動詞（助動詞+前置詞など）の受動態	

		Unit 6 カーボンニュートラル (説明文／環境)	○	○	○	【Listening】 注文内容などの聞き取り Unit 6 【Reading】 不定詞① (知覚動詞、使役動詞) 【Listening】 話し手の気持ちの理解	
2 学 期 中 間		Unit 7 成人年齢の引き下げ (ディスカッション) Unit 8 スティーブ・ジョブズ (伝記) Unit 9 野生動物の保護 (説明文／環境)	○	○	○	Unit 7 【Reading】 不定詞② (重要構文) 【Listening】 必要な情報の聞き取り Unit 8 【Reading】 動名詞 【Listening】 アナウンスの聞き取り Unit 9 【Reading】 分詞① (補語になる分詞) 【Listening】 グラフと照合する聞き取り	学習態度 問題演習 単元テスト 中間考査
2 学 期 期 末		Unit 10 電子書籍と紙の本 (説明文／産業) Unit 11 正体不明の人物 (説明文／科学)	○	○	○	Unit 10 【Reading】 分詞② (分詞構文) 【Listening】 チラシと照合する聞き取り Unit 11 【Reading】 比較	学習態度 問題演習 単元テスト 期末考査

		Unit 12 月の影響 (説明文／科学)	○	○	○	【Listening】 天気予報の聞き取り Unit 12 【Reading】 関係代名詞 【Listening】 ニュースの聞き取り①	
3 学 期		Unit 13 ジェシー・オーエンス (伝記) Unit 14 ギャップ・イヤー (説明文／教育) Unit 15 英語の歴史 (説明文／言語)	○	○	○	Unit 13 【Reading】 関係副詞 【Listening】 ニュースの聞き取り② Unit14 【Reading】 仮定法① (仮定法過去と仮定法過去完了) 【Listening】 2人の会話の聞き取り Unit 15 【Reading】 仮定法② (仮定法の注意すべき用法) 【Listening】 3人の会話の聞き取り	学習態度 問題演習 単元テスト 学年末考査

2024 年度 相愛高等学校 2 年 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	数学	科目	数学 I 演習	単位数	4	学年	2	選択	CD 選択
教科書	高等学校 新編数学 I (数研出版) 高等学校 新編数学 A (数研出版)								
副教材	チャート式 基礎と演習 数学 I + A (数研出版) 教科書傍用 3TRIAL 数学 I + A (数研出版) 演習プリント								

1 学習の到達目標

数学 I, 数学 A の範囲において, 基本的な問題に対する解法を修得し, 校外の模擬試験など学外受検者を含めた試験において, 平均点以上が取れることを目標とする。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

実際に手を動かして, 授業で指示された解答を書くことから始めていきましょう。日々継続して取り組むことで, 数学に慣れるように心がけて問題に取り組んでみてください。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	数学 I 及び数学 A において使われる数学の用語を正しく認識し, 基本的な計算ができるように確認をするとともに, 理解を深める。	数学 I 及び数学 A において確認・修得した知識・技能 (技術) を正しく活用できるように, 事例を用いて, 数学的な思考及び判断を身につける。また身につけた数学的な思考及び判断について, 表現する力を身につける。	様々な課題について, 数学的な視点をもって学んだことを活用し, その解決策について考察をする。
評 価 方 法	課題考查 定期考查 小テスト等	課題考查 定期考查 小テスト等	・課題レポート ・授業全体への取組状況 (発表などを含む)
上に示す観点に基づいて, 学習のまとめりに評価し, 各学期に通信票で提示, 学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて, それぞれの観点を適切に配分し, 評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I : 知識・技能 II : 思考・判断・表現 III : 主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	数 と 式	・多項式の 加法・減法・乗法 ・因数分解 ・実数	○	○	○	・展開・因数分解といった、文字式の基本的な計算処理ができるようになる。 ・複数の文字を含むなどのやや難しい t 多項式において、因数分解の計算ができるようになる。 ・数の種類とその性質について正しい理解を深め、課題・問題の中でその役割は正しく認識できるようになる。	課題考查 定期考查 小テスト等
1 学 期 期 末	数 と 式 ・ 集 合 と 命 題 ・ 2 次 関 数	・1次不等式 ・集合 ・論理と集合 ・関数とグラフ	○	○	○	・不等号が示す役割を理解できるようになる。 ・文章で書かれた状況を、数式化できるようになる。またその反対に、数式が示す内容を理解できるようになる。 ・集合で用いられる各種記号について、正しく理解・活用できるようになる。 ・「十分条件」、「必要条件」、「必要十分条件」が示す数学的表現と思考を理解する。 ・変数に対応する値（関数）についての理解を深め、式で表現された内容を、グラフなどを用いて処理できるようになる。	定期考查 小テスト レポート等
2 学 期 中 間	2 次 関 数	・2次関数の 最大と最小と決定 ・2次方程式 ・2次関数のグラフと x 軸の位置関係 ・2次不等式	○	○	○	・2次関数の値の変化・決定についての基本的な計算ができるようになる。 ・2次関数と2次方程式の関係を理解し、判別式などの新しい考え方が活用できるようになる。 ・さらに2次方程式から2次不等式へと扱い方を拡張し、2次不等式を用いた様々な問題解決ができるようになる。	課題考查 定期考查 小テスト等
2 学 期 期 計	図 形 と 計	・三角比の基本 ・三角比の拡張 ・正弦定理と余弦定理 ・三角比の面積、	○	○	○	・正弦定理、余弦定理を中心とした問題に対応できるように、拡張された三角比の基本を習得する。 ・面積をはじめとする平面図形・空間図	定期考查 小テスト等 レポート等

末	量	空間図形への応用				形などの図形への応用が処理できるようになる.	
3 学 期	デ ー タ の 分 析	・データの整理, データの代表値 ・データの散らばり ・データの相関 ・仮説の検定	○	○	○	・統計における各用語と, 基本的な値の処理・計算の仕方を身につける. ・箱ひげ図や散布図など図式化されたデータについて, その状況が理解・把握できるようになる. ・基本的な仮説の検定の考え方を身につけ, またそれを文章で表現できるようになる.	課題考査 定期考査 小テスト等 レポート等

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	数学	科目	数学 I 演習	単位数	4	学年	3	選択	CD 選択
教科書	新編 数学 I（数研出版） 新編 数学 A（数研出版）								
副教材	チャート式 基礎と演習 数学 I + A（数研出版） 3TRIAL 演習プリント								

1 学習の到達目標

数学 I、数学 A の範囲において、基本問題が解けるようになり、模擬試験で平均点以上が取れることを目標とする。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学の楽しさが実感できるよう、積極的に学びましょう。
毎回の授業にしっかりと取り組めば、問題が解けるようになります。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	a：数学への関心・意 欲・態度	b：数学的な見方や考 え方	c：数学的な技能	d：数量や図形などにつ いての知識・理解
観 点 の 趣 旨	高校数学における考 え方に関心をもつと ともに、数学のよさ を認識し、それらを 事象の考察に活用し て数学的な考え方に 基づいて判断しよう とする。	高校数学において、事 象を数学的に考察し 表現したり、思考の過 程を振り返り多面的・ 発展的に考えたりす ることなどを通して、 数学的な味方や考え 方を身に付けている。	高校数学の考えにお いて、事象を数学的に 表現・処理する仕方 や推論の方法などの技 能を身に付けている。	高校数学の考えにお ける基本的な概念、原理・ 法則などを体系的に理 解し、基礎的な知識を身 に付けている。
評 価 方 法	・学習状況 ・提出課題 ・発問への対応	・学習状況 ・提出課題 ・発問への対応	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期の評価に組み入れる。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。				

4 年間指導計画

時期	学習内容
1 学期	数学 I、数学 A の問題演習（4 月、6 月、7 月模試の問題を演習）
2 学期	数学 I、数学 A の問題演習（9 月、11 月模試の問題を演習）
3 学期	数学 I、数学 A の問題演習（1 月模試の問題を演習）

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	国語	科目	古典探究	単位数	2	選択等	選択
教科書	『古典探究』（大修館書店）						
副教材等	『解釈のための必携古典文法 三訂版』（啓隆社）、『改訂版 常用国語便覧』（浜島書店） 『重点整理 新・国文学史ノート』（日栄社）、『古文単語 300』（旺文社） 『評解 新小倉百人一首』（京都書房） 〈以上高校 1 年より継続して利用〉						

1 学習の到達目標

古文や漢文を主体的に読み深めることを通して、日本の伝統的な言語文化への理解や関心を深めることを目的とする。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

古典を「読むこと」を軸に、単に現代語訳に改めることをゴールにするのではなく、古典の解釈をするために積極的に文化理解を深め、時にクリティカルな読みを含め、積極的な学習態度を涵養したい。話の構成や展開に工夫があることに気づき、自らの言語活動の質をも向上させてほしいと思っています。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しみ、言語の特徴や決まりなどについて理解する。本文の目的や場面、意図に応じ、論理の展開に目を見張り、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ、相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、文化などについて自分の考えを持っている。	国語で理解する能力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について◎をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	説話	『宇治拾遺物語』 「検非違使忠明」 『十訓抄』 「大江山いくのの道」	◎	○	○	古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 作品の成立時代や背景を理解し、文章に描れている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
1 学期 期末	随筆・歌物語	随筆 歌物語 『方丈記』 「行く川の流れ」 『伊勢物語』 「月やあらぬ」	○	◎	○	物事の様子や場面などを、読み手が言葉をしてありありと想像できるよう描いている。 書くことに必要な、文の組み立てについて理解している。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 中間	漢文・日記文学	『史記』 「項王の最期」 『土佐日記』 「門出」	○	◎	○	文章に描かれている情景を、文や文章、語などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。 漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 期末	物語・随筆	『源氏物語』 「若紫」 『枕草子』 「中納言参りたまひて」	◎	○	○	我が国の言語文化は、中国をはじめとする外国の文化の受容とその変容を繰り返しつつ築かれてきたに気付いている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 文章の組立てや骨組みを的確に捉えている。 人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などが果たしている効果に気付いている。 文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査

3 学 期	歴 史 物 語 ・ 歌 論	『大鏡』 「競べ弓」 『無名抄』 「おもて歌」	○	◎	○	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。 文章の形態や文体の違いによる特色について、理解している。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 日本文化に組み込まれた幽玄の端緒を知り、輻輳する意味構造や古歌を引くことについて理解できている	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
-------------	---------------------------------	--------------------------------------	---	---	---	--	--

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	家庭	科目	幼児教育基礎	単位数	1	学年	2・3	選択	C 選択
教科書	「表現」がみるみる広がる！保育ソング 90								
副教材	なし								

1 学習の到達目標

音楽の表現活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

歌唱を通して、未知の世界に触れたり、季節や日本の伝統を知る。子供の感性と表現力を育てるために必要とされる、音楽的な表現の技術と歌を保育の中で使いこなすアイデアを習得する。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

歌や楽器は、子供の感性と表現力を育てる大切な素材です。苦手意識を取り払い、みんなで作り上げることで楽しみを共有し、将来の仕事に役立ててほしいと思います。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	保育者として求められる音楽基礎知識と技術を理解、修得している。 幼稚園・保育園への訪問・実習を通して、子どもの年齢に則した保育内容の企画及び実践ができる。 弾き歌いや手遊び歌など、音楽的表現の基礎的な技能が身についている。	音楽的な保育実践を通して、感じたことや考えたことを創意工夫し、様々な形での音楽表現する方法を思考する能力を身につけている。	幼児音楽に関心を持ち、実際に子どもと関わろうとする意欲と態度を身につけている。また、歌唱技術やピアノ奏法などの技能向上の為に研鑽できている。
評 価 方 法	学習状況の観察 プリント 発表 自己評価 等	学習状況の観察 プリント 発表 自己評価 等	学習状況の観察 プリント 発表 自己評価 等
上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期	絵 本 読 み 聞 か せ	絵本を選び、幼児向けに絵本を読む。	○	○	○	絵本を正しく読むことができる。 対象年齢に合わせた読み方ができる。 幼児に絵本の世界が広がるような読み方ができる。	実技試験
	手 遊 び 歌	季節の童謡を用いて、歌詞を表現しながら歌唱する。	○	○	○	幼児が歌詞の意味を理解するために、より有効な手遊びを考える。 幼児に歌の楽しさが伝わるように工夫しながら歌唱する。	実技試験 作品提出
	お 話 創 作	幼児向けのお話を創作する。	○	○	○	幼児対象にふさわしく、また興味関心を持ってくれるような内容、言葉遣いで物語を創作する。	プリント提出
2 学 期	発 表 準 備	各自の分担された役割で、制作や演技の練習をする。	○	○	○	発表内容に対して、創意工夫を凝らした作品制作ができる。 制作した作品を、音楽表現と共に使用する事ができる。 幼児と積極的に関わり楽しんでもらえるように創意工夫をし、それを発表することによって表現する事ができる。 幼児に対して保育者として接する姿勢で発表に臨む事ができる。	発表 学習態度 作品制作
3 学 期	ピ ア ノ 弾 き 歌 い	季節の童謡を用いて、ピアノ伴奏を弾きながら歌を歌唱する。	○	○	○	楽譜通りにピアノを両手で弾けるようになる。 自分のピアノ伴奏に合わせて、歌唱できる。 幼児に聞かせることを想定して、歌詞の意味を理解しながら演奏する事ができる。	実技試験

	童謡の歌唱	季節の童謡を覚えて歌唱する。	○	○	○	多くの人の前でも、臆する事なく歌唱する事ができる。 歌詞を理解して、幼児に歌の楽しさを伝える事ができる。	実技試験
	音楽表現実習	ハンドベルなどの楽器を用いて、器楽実習を行う。	○	○	○	楽器を用いて、周りと合わせながら演奏することが出来る。	学習態度

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	家庭科	科目	フードデザイン	単位数	2	学年	2・3	選択	C 選択
教科書	「フードデザイン Food Changes LIFE」 (教育図書)								
副教材	「フードデザイン Food Changes LIFE」 ワークノート (教育図書)								
	「基礎から学ぶ ビジュアルクッキング」 (教育図書) (高 3 のみ)								

1 学習の到達目標

高校 1 年生で履修した「家庭基礎」の食物領域を発展させたものである。

栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技能を習得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

調理実習を通し、調理することの喜びを味わい、日常生活での実践につなげて欲しい。食分野の専門課程に進学を希望する人は、資格取得するなどより高い目標を持って意欲的に頑張ってください。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートなどに関する知識を身に付けるとともに、それらに係る技能を身に付けている。	食生活を総合的に捉えて計画・実践するための課題を見だし、思考を深め、食育の推進に寄与するために、創意工夫し表現する能力を身に付けている。	食生活に関する諸問題に関心をもち、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする意欲と態度を身に付けている。
評 価 方 法	行動観察、定期考査、ワーク ワークシート、レポート など	行動観察、定期考査、ワーク ワークシート、レポート など	行動観察、ワークシート、 ワーク、レポート、 発問への反応・発言 など

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
		I	II	III		

1 学 期	座 学	第 5 章各国料理とコー ディネート ①料理の様式 1 日本料理の様式 2 西洋料理の様式 3 中国料理の様式 ②テーブルコーディネ ート 4 日本料理のコーディ ネート 5 西洋料理のコーディ ネート 6 中国料理のコーディ ネート	○	○	○	・日本料理、西洋料理、中国料理のそれ ぞれの特徴や献立などについて、理解し ようとしている。 ・テーブルコーディネートについて理解 し、自分の食生活に結び付けて関心を持 って取り組もうとしている。	行動観察 ワーク ワークシート 定期考査
	実 習	第 4 章調理実習 洋食、中華、製菓実習	○	○	○	・季節の献立は季節感を出す調理方法に 関心・意欲を持っている。 ・衛生面に注意し、班の人と協力し調理 し、片づけに取り組もうとしている。	行動観察 ワーク・ワー クシート 定期考査
	高 大 連 携	第 4 章調理実習 臨床栄養学実習 ライフステージ栄養学	○	○	○	・大学における専門的な知識を学び、興 味関心を深めさせる。 ・特に、今後の進路に向けて、視野を広 げ、主体的に考えさせる。	行動観察 ワーク・ ークシート 定期考査
2 ・ 3 学 期	座 学	第 2 章 栄養素と食品 ①栄養素と消化・吸収 ③食品とその特徴 1 穀類 2 いも類 3 砂糖 4 豆類 5 魚介類 6 肉類 7 卵 8 牛乳・乳製品	○	○	○	・五大栄養素のはたらきと消化・吸収の しくみについて、理解しようとしてい る。 ・食品の特徴、調理上の性質、調理の特 徴や加工などについて、関心を持って取 り組もうとしている。	行動観察 ワーク ワークシート 定期考査
	高 大 連 携	第 4 章調理実習 製菓実習 食品学実習	○	○	○	・各実習のテーマを把握し、それに応じ た調理方法を捉え、実習に臨もうとし ている。	行動観察 ワーク・ワー クシート 定期考査
	実 習	第 4 章調理実習 和食・製菓実習・行事食 など	○	○	○	・和食料理、洋風料理、中華料理、製菓、 行事食などさまざまな献立に取り組み 調理技術を習得しようとしている。 ・各献立（レシピ）を自分なりに工夫し ようとしている。	行動観察 ワーク・ワー クシート 定期考査

2024年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	家庭科	科目	幼児教育基礎	単位数	1	学年	2・3	選択	C 選択
教科書	「保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ」(教育図書)								
副教材	「保育基礎」ワークノート (教育図書)								

1 学習の到達目標

高校1年生で履修した「家庭基礎」の保育領域を発展させたものである。

保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

また、子どもの健やかな発達を目指して学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

子どもが安心できる環境の中でのびのびと遊びながらどんなことを学び育っていくのか、どう発達するのか、また子供にはどんな保育が必要なのかを積極的に学び、関心を深めてください。また、保育者としての役割や知識、態度を正しく身につけることができるよう、しっかりと取り組んでください。特に、保育分野の専門課程に進学を希望する人は、基礎的なことをしっかり学び、更に学びを深めていってください。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能(技術)	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	子供の発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身に付けている。 子どもの発達の特長や発達過程に対応した技術を身に付けている。	子供を取り巻く環境を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身に付けている。	子供の発達や保育に関わる職業について関心を持ち、地域の保育や子育て支援を通じて子供の健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身に付けている。
評 価 方 法	学習状況の観察 プリント 実習記録 レポート 発表 自己評価など	学習状況の観察 プリント 実習制作物 レポート 発表 自己評価 相互評価など	学習状況の観察 プリント ワークシート 実習レポート 実習制作物 発表 自己評価など

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	子どもの保育	・保育の意義 ・保育の環境① ・児童文化財の制作（フェルトでおもちゃ）	○	○	○	・家庭での養育と集団保育の役割を理解している。 ・現在の子育て家庭が集団保育に求めていることについて、子育ての環境の変化などに関連させながら具体的に考察することができる。	・プリント ・レポート
1 学期 期末	子どもの保育	・児童文化財の制作（フェルトでおもちゃ） ・保育の環境②③ ・保育の方法	○	○	○	・保育所、幼稚園、認定こども園の特徴について、また様々な保育のニーズについて理解する。 ・子どもの発達は、身体の発育と心や身体の機能の発達が相互に関連して成されていくことを理解する。 ・子どもの発達の共通性・個別性について理解している。	・プリント ・レポート ・作品 ・定期テスト
2 学期 中間	子どもの発達	・子どもの発達と特性 ・乳幼児の発育と発達①②③ ・保育体験実習に向けての準備	○	○	○	・子どもの養護の必要性について理解し、その発達段階に応じた適切な養護や生活援助のための技術を理解する。 ・発達の各側面における過程を理解している。	・プリント ・レポート ・グループ活動
2 学期 期末	子どもの生活	・保育体験実習に向けての準備 ・児童文化財の製作（フェルトで自由制作） ・子どもの健康と生活 ・子どもの食事①②	○		○	・近年の幼児に関する食事習慣や健康面の課題を知り、家庭や保育施設でどのようなことが求められているか理解する。 ・食事が生活習慣の確率や心の発達に重要な役割を持つことを理解する。	・プリント ・レポート ・グループ活動 ・発表 ・定期テスト

3 学 期	子 ど も の 文 化	・調理実習（幼児食） ・子どもの表現活動①② ・子どもと遊び ・児童文化財の制作(折り紙)	○	○	○	・調理に関心をもち、積極的に参加している。 ・子どもの健やかな発達が遊びによってもたらされていること理解する。 ・現代の子どもの遊びを取り巻く現状を知り、課題について考察することができる。	・プリント ・レポート ・作品 ・定期テスト

※相愛大学との連携授業で年間3回講義と実習が実施予定です。（そのうち1回は大学へ行きます。）

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	外国語 (英語)	科目	英語演習 B	単位数	2	学年	3	選択	C 選択
教科書	なし								
副教材	2-Step Reading 標準編 (数研出版) 即戦ゼミ 大学入試ベストポイント英語頻出問題 740 (桐原書店)								

1 学習の到達目標

速読、精読の練習を通して、入試問題に対応できる応用力を身に着けることを目標とする。与えられたテーマに基づき、自分の意見や考えを英語で表現したり、物語を英語で書いたりすることを目指す。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

普段からたくさんの英文に接するよう努めましょう。意味がわからない単語は辞書で調べ記録し、後で見直すことによって、語彙力が定着します。定期考査長文は応用問題です。入試に対応できる力をつけていきましょう。毎時間文法の小テストを行います。また毎月英文エッセイの課題があります。単語以外は調べず、たくさん英文を書く練習をしましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の 4 技能 (話す、書く、聞く、読む) について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	場面、目的、状況に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評 価 方 法	・ 定期考査 ・ 小テストなど	・ 定期考査 ・ 提出課題など	・ 発問への反応、発言 ・ 課題への取り組み、内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間		L1 フィクション L2 自然・環境 L3 フィクション L4 文明・歴史	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	I: L1: 先を予測する読みを意識する。関係代名詞の理解を深める。 L2: 自然・環境 順序を表す表現を意識する。代動詞、関係代名詞を含む文構造の理解を深める。 L3: 複数表現での言い換えを意識する。比較、so...that~を含む文構造の理解を深める。 L4: 長文を区切って読むことを意識する。不定詞、現在完了、受動態の理解を深める。 II: 内容を理解・把握できているか。 III: 自由英作で意見などを表現できているか。	学習態度 小テスト 定期考査 発問の反応 提出課題
1 学 期 期 末		L5 フィクション L6 文明・歴史 L7 フィクション L8 文明・歴史 L9 文化・国際理解	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	I: L5: 時を表す表現を意識する。過去完了を含む文構造の理解を深める。 L6: 複数表現での言い換えを意識する。関係代名詞、接続詞の理解を深める。 L7: コロン、セミコロンの役割を意識する。不定詞、分詞の意味上の主語の理解を深める。 L8 時を表す表現を含む長文を区切って読むことを意識する。関係副詞、付帯状況の with の理解を深める。 L9 後置修飾語の読み方を意識する。関係副詞、関係代名詞の理解を深める。 II: 内容を理解・把握できているか。 III: 自由英作で意見などを表現できているか。	学習態度 小テスト 定期考査 発問の反応 提出課題
2 学		L10 医療・健康 L11 文明・歴史	○ ○	○ ○	○ ○	I: L10 挿入句を含む長文を区切って読むことを意識する。省略表現、意味上の	学習態度 小テスト

期 中 間		L12 言語・コミュニケーション L13 学問・教育 L14 科学・技術	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	主語の理解を深める。 L11 挿入句を含む長文を区切って読むことを意識する。分詞構文の理解を深める。 L12 例示表現を意識する。Find+O+Cや使役動詞+O+原形不定詞の理解を深める。 L13 what 節を意識する。関係代名詞の理解を深める。 L14 that 節を意識する。関係代名詞、that 節を含む文構造の理解を深める。 Ⅱ：内容を理解・把握できているか。 Ⅲ：自由英作で意見などを表現できているか。	定期考査 発問の反応 提出課題
2 学 期 期 末		L15 社会・メディア L16 医療・健康 L17 エッセイ L18 文化・国際理解 L19 自然・環境	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	Ⅰ：L15 呼応表現を意識する。関係代名詞を含む文構造の理解を深める。 L16 and などの接続詞を意識する。関係代名詞の理解を深める。 L17 that 節を含む長文を区切って読むことを意識する。仮定法の理解を深める。 L18 後ろの内容を予測しながら読むことを意識する。S+V+O+原形不定詞を含む文構造の理解を深める。 L19 後ろの内容を予測しながら読むことを意識する。so...that~を含む文構造の理解を深める。 Ⅱ：内容を理解・把握できているか。 Ⅲ：自由英作で意見などを表現できているか。	学習態度 小テスト 定期考査 発問の反応 提出課題
3 学 期		L20 言語・コミュニケーション	○	○	○	Ⅰ：L20 比喩表現を意識する。接続詞と関係代名詞を含む文構造の理解を深める。 入試問題読解 Ⅱ：内容を理解・把握できているか。 Ⅲ：自由英作で意見などを表現できているか。	学習態度 小テスト 定期考査 発問の反応 提出課題

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	国語	科目	古典探究	単位数	2	選択等	必修
教科書	『古典探究』（大修館書店）						
副教材等	『解釈のための必携古典文法 三訂版』（啓隆社）、『改訂版 常用国語便覧』（浜島書店） 『重点整理 新・国文学史ノート』（日栄社）、『古文単語 300』（旺文社） 『評解 新小倉百人一首』（京都書房） 〈以上高校 1 年より継続して利用〉						

1 学習の到達目標

古文や漢文を主体的に読み深めることを通して、日本の伝統的な言語文化への理解や関心を深めることを目的とする。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

古典を「読むこと」を軸に、単に現代語訳に改めることをゴールにするのではなく、古典の解釈をするために積極的に文化理解を深め、時にクリティカルな読みを含め、積極的な学習態度を涵養したい。話の構成や展開に工夫があることに気づき、自らの言語活動の質をも向上させてほしいと思っています。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しみ、言語の特徴や決まりなどについて理解する。本文の目的や場面、意図に応じ、論理の展開に目を見張り、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ、相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、文化などについて自分の考えを持っている。	国語で理解する能力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について◎をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	説話・物語	『大和物語』 「をばすて」 『大鏡』「三船の才」	◎	○	○	古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 作品の成立時代や背景を理解し、文章に描れている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。 連歌についての理解を求める。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
1 学 期 期 末	俳論・日記	『去来抄』 「行く春を」 『蜻蛉日記』 「町の小路の女」	○	◎	○	物事の様子や場面などを、読み手が言葉をしてありありと想像できるよう描いている。 書くことに必要な、文の組み立てについて理解している。 贈答歌についての理解を求める。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学 期 中 間	漢文・随筆	『史記』 「荊軻」 『枕草子』 「二月つごもりごろに」	○	◎	○	文章に描かれている情景を、文や文章、語などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。 漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学 期 期 末	日記 文学・物語	『和泉式部日記』 「薫る香に」 『源氏物語』 「御法」	◎	○	○	我が国の言語文化は、中国をはじめとする外国の文化の受容とその変容を繰り返しつつ築かれてきたに気付いている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 文章の組立てや骨組みを的確に捉えている。 人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などが果たしている効果に気付いている。 文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査

3 学 期	演 習	『曽根崎心中』 「道行」	○	◎	○	大阪の文化がはぐくんだ古典に触れる。現代文分野に近づいた理解をする必要もあり、和歌、物語、随想を下地にした言い回しに気をつけながらも、作中人物の心情などを理解する。 和文脈と漢籍がつながるような部分においては、深い理解を求め、文章の形態や文体の違いによる特色について、理解する。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
-------------	--------	-----------------	---	---	---	--	--

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	数学	科目	数学 B	単位数	2	選択等	D 選択
教科書	新編 数学 B (数研出版)						
副教材等	3TRIAL 数学Ⅱ+B (数研出版) スタディサプリ						

1 学習の到達目標

数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業の内容の理解を深めましょう。疑問点や分からないことがあれば、そのままにせず、質問しましょう。教科書をしっかり読むことを通じて、予習・復習することを習慣として身に付けてください。宿題に取り組む際には、理解できているかを意識しながら丁寧に解きましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト 課題考査	定期考査 小テスト 課題考査	課題レポート 授業中の発表や態度

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1学期 中間	第1章 数列	① 等差数列と等比数列 ・数列と一般項 ・等差数列 ・等差数列の和 ・等比数列 ・等比数列の和	○	○	○	I ○数列の定義、表記について理解している。 ○数列に関する用語、記号を適切に用いることができる。 ○等差数列の公差、一般項などを理解している。 II ○数の並び方からその規則性を推察して、数列の一般項を考察できる。 III ○数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。 ○等差中項の性質に興味をもち、問題解決に取り組もうとする。 ○等比中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物
	1学期 期末	② いろいろな数列 ・和の記号 Σ ・階差数列 ・いろいろな数列の和	○	○	○	I ○記号 Σ の意味と性質を理解し、数列の和が求められる。 ○第k項をkの式で表して、初項から第n項までの和が求められる。 ○階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 II ○数列の和を記号 Σ で表して、和の計算を簡単に行うことができる。 ○初項から第n項までの和に着目して、一般項を考察できる。 ○群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物

		③ 漸化式と数学的帰納法 ・ 漸化式 ・ 数学的帰納法	○	○	○	III ○自然数の2乗の和を工夫して求める方法に興味をもち、自然数の2乗の和の公式を導こうとする意欲がある。 ○群数列に興味をもち、考察しようとする。 I ○漸化式の意味を理解し、具体的に項が求められる。 ○漸化式を適切に変形して、その数列の特徴を考察することができる。 ○おき換えを利用して、漸化式から一般項を求めることができる。 ○初項と漸化式から数列の一般項が求められる。 ○数学的帰納法を用いて等式、不等式、自然数に関する命題を証明できる。 ○$n \geq k$ の場合に成り立つ不等式を、数学的帰納法を用いて証明できる。 II ○初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。 ○複雑な漸化式を、おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。 ○自然数 n に関する命題の証明には、数学的帰納法が有効なことを理解している。 III ○$an+1=pan+q$ を満たす数列の階差数列について、具体的に考察しようとする ○数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	
2 学 期 中 間	第 2 章 統	① 確率分布 ・ 確率変数と確率分布 ・ 確率変数の期待値と分散 ・ 確率変数の和と積	○	○	○	I ○確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 ○確率変数の確率分布を求めることができる。	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物

	計 的 な 推 測				○確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 ○確率変数の和の期待値を、公式を利用して求めることができる。 ○複雑な確率分布の期待値を、確率変数の和の期待値の公式などを利用して求めることができる。 ○確率変数の独立について理解している。 II ○試行の結果を確率分布で表すことの意味がとらえられている。 ○確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。 ○確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係がとらえられている。 III ○確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることのよさに気づき、確率分布について積極的に考察しようとする。 ○確率変数の期待値、分散に関する種々の公式を、その定義や既知の公式を用いて導こうとする。 ○2つの確率変数の和や積の期待値、分散に関する種々の公式を、確率変数が独立であるかどうかに関心しながら導こうとする。	
2 学 期 期 末	・ 二項分布 ・ 正規分布	○	○	○	I ○二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。 ○確率密度関数や分布曲線の定義を理解し、連続型確率変数について、確率を求めることができる。 ○標準正規分布に従う確率変数Zについての確率を求めることができる。 ○標準正規分布表を用いて、正規分布に関する確率の計算ができる。	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物

					○二項分布に従う確率変数に関する確率の計算を、正規分布に従う確率変数で近似して求めることができる。 II ○具体的な事象を二項分布として捉え、考察することができる。 ○正規分布の特徴を理解し、様々な視点からとらえることができる。 ○正規分布を活用して現実のデータについて考察することができる。 III ○二項分布に興味・関心をもち、さいころを投げるなどの具体的事項について考察しようとする。 ○連続型確率変数について、離散型確率変数との違いに注目して捉えようとする。 ○現実のデータが正規分布に近い分布になることがあることに興味をもち、様々なデータについて考察しようとする。	
学 年 末	② 統計的な推測	○	○	○	I ○母集団分布と大きさ1の無作為標本の確率分布が一致することを理解し、母平均、母標準偏差を求めることができる。 ○母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。 ○標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。 ○信頼区間の考え方をを用いて、母平均や母比率の推定ができる。 ○仮説検定に関わる用語を適切に活用することができる。 II ○母集団分布と大きさ1の無作為標本の確率分布が一致することについて考察できる。 ○母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわ	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物

					かる。 ○標本の大きさ n を大きくしたとき、標本平均がどのような分布になるか直感的に理解した上で、標本平均の値がどの範囲にどれくらいの確率で現れるか推測できることを理解している。 ○推定や信頼区間の考え方がわかる。 ○片側検定と両側検定の違いを理解し、どちらの検定をするか正しく判断できる。 Ⅲ ○母集団や標本の特徴を理解しようとする。 ○大数の法則に興味をもち、標本の大きさ n が大きくなるときの分布曲線の変化を、コンピュータなどを用いて積極的に調べようとする。 ○母平均や母比率の推定に関心を示し、信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察しようとする。 ○仮説検定によって様々な判断ができることに興味をもち、現実の問題の解決に役立てようとする。	
--	--	--	--	--	---	--

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	理科	科目	理科基礎演習Ⅱ	単位数	2	学年	3	選択	D 選択
教科書	新編 化学基礎（東京書籍） 新編 生物基礎（数研出版）								
副教材	ネオパルノート 化学基礎（第一学習社） セミナー 化学基礎（第一学習社） 生物基礎 サポートノート（数研出版）								

1 学習の到達目標

自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。

大学入試共通テストに対応できるように理論を理解した上で過去の問題、模擬試験の問題演習を行う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

しっかりと基本的な理論を学習し受験に対応できる応用力を身につける。

宿題テスト、ノート、授業態度、定期考査を総合的に評価する。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

※進路希望状況に応じて、学習内容を大幅に変更することがある。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	化学分野	化学基礎の復習 及び問題演習 ＊物質の成分と構成元素 ＊原子の構造 ＊化学結合	○	○	○	I：化学基礎の基礎的な問題や知識の問題を解くことができる。 II：応用問題や論述問題を解くことができる。また、説明することができる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
1 学期 期末	生物分野	生物基礎の復習 及び問題演習 ＊生物の多様性 ＊エネルギーと代謝 ＊呼吸と光合成 ＊遺伝情報の複製と分配、発現	○	○	○	I：生物基礎の基礎的な問題や知識の問題を解くことができる。 II：応用問題や論述問題を解くことができる。また、説明することができる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
2 学期 中間	化学分野	化学基礎の復習 及び問題演習 ＊物質と化学反応式 ＊酸と塩基 ＊酸化還元反応	○	○	○	I：化学基礎の基礎的な問題や知識の問題を解くことができる。 II：応用問題や論述問題を解くことができる。また、説明することができる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
2 学期 期末	生物分野	生物基礎の復習 及び問題演習 ＊体内環境 ＊免疫 ＊生態系	○	○	○	I：生物基礎の基礎的な問題や知識の問題を解くことができる。 II：応用問題や論述問題を解くことができる。また、説明することができる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
3 学期	総合分野	共通テスト対策問題演習	○	○	○	I：生物基礎の基礎的な問題や知識の問題を解くことができる。 II：応用問題や論述問題を解くことができる。また、説明することができる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

2024 年度 相愛高等学校 A～D 群専攻選択授業 シラバス

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	2	学年	2・3	選択	D 選択
教科書	高校生の音楽② 教育芸術社								
副教材	ファイル、プリント、iPad								

1 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。より専門的な音楽の知識も学び、また様々な種類の音楽に触れ親しむことで、感性を高め、音楽文化について理解を深める。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

様々な音楽に触れることにより、美しさ、楽しさを感じ取り、心豊かに生活できることを願っています。又、音楽が必要な進路を考えている人は、将来必要な基礎的な内容も勉強します。一緒に音楽を学び、楽しみましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	【表現】 歌唱表現に関わる曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりや言葉の特性と曲種を理解している。曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけている。 【鑑賞】 ・鑑賞に関わる音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解している。 【共通事項】 ・音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。	【表現】 ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫することやどのように表すかについて表現意図をもっている。 【鑑賞】 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【共通事項】 ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。	【表現・鑑賞】 ・主体的・協働的に歌唱・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評 価	定期考査、歌唱テスト、ワークシート、小テスト	定期考査、ワークシート、小テスト	小テストの結果、ワークシートの内容で評価。また、積極的に

方 法			歌唱に取り組む態度や発問に対する反応と発言、提出物の内容で評価。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期	歌 お う	A. 糸（二部合唱）	○	○	○	a. 詩の内容を身近な事柄から感じとり、自己のイメージと他者との調和を意識しながら歌う。	学習態度 定期考査 実技テスト レポート 発問の対応
		B. ヨーロッパの歌（斉唱）	○	○	○	b. 「愛のよろこび」などの歌曲の歌詞の内容を考えながら、発声や発音に気を付け、豊かな声で歌う。	
	学 ぼ う	A. 楽譜について 音符・休符・音名・拍子記号・音程について	○	○	○	a. 楽譜の名称や正しい書き方などを知り、又、音符や休符の名称や役割を理解し実際に活用する。	
		B. ソルフェージュについて C. バロック音楽について	○	○	○	b. 合唱などの演奏時に必要な基礎的なソルフェージュを学ぶ c. バロック時代の音楽の特徴や文化、時代背景を知り、音楽の持つ曲想や美しさなど、感じたことをまとめる。	
2 学 期	歌 お う	A. 日本の歌（斉唱）	○	○	○	a. 日本語の美しさを感じながら、歌詞の内容をよく理解して表現する。	学習態度 定期考査 実技テスト レポート 発問の対応
		B. ディズニー・メドレー（2部合唱）	○	○	○	b. 作品を思い浮かべ、自己のイメージと他者との調和を意識しながら表現する。	
	学 ぼ う	A. 音階について	○	○	○	a. 調号を復習しながら、調号の意味、役割を考え、長音階、短音階を理解する。	
		B. 古典派、ロマン派の音楽について	○	○	○	b. 古典派、ロマン派の音楽の特徴や文化、時代背景を知り、音楽の持つ曲想や美しさなど感じたことをまとめる。	

3 学 期	歌 お う 学 ぼ う	A. 旅立ちの日に向けて (2部合唱)	○	○	○	a. 「旅立ちの歌」、「ふるさと」など、思 い出や未来への思いなど気持ちを込 めて、又、他者との調和を意識しなが ら歌う。	学習態度 定期考査 実技テスト レポート 発問の対応
		A. 和音について	○	○	○	a. 和音の作り方や意味、役割を理解し活 用できるようにする。	
		B. 近代の音楽について	○	○	○	b. 近代の音楽の特徴や文化、時代背景を 知り、音楽の持つ曲想や美しさなど、 感じたことをまとめる	